（仮称）小国町次期総合センター建設工事

令和５年３月

PROJECT NO. H22130

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
TOSHIO HOMMA & ASSOCIATES

（仮称）小国町次期総合センター建設工事　　工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

１．工事場所　山形県西置賜郡小国町大字岩井沢724

２．敷地面積　８，２００㎡

３．工事種目　建築工事

総合センター棟		新設一式
延べ面積	２，１９５．１６㎡	
チップボイラー棟		新設一式
延べ面積	１５１．０８㎡	
電気設備工事		新設一式
機械設備工事		新設一式
外構工事		新設一式

４．工事範囲　図示

Ⅱ　建築工事仕様

（１）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

（２）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。

（３）本特記仕様書の表記
1）項目は、⊙印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（．．）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）特記事項に記載の［．．］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
5）G印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月8日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表１中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

章	項　目	特　記　事　項
1章 各章共通事項	⊙ 適用基準	1）図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・公共建築工事標準単価積算基準（最新版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・公共建築数量積算基準（最新版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部 2）本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準詳細図（令和４年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
	⊙ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ⊙風圧力 風速（V0 ＝　３０　m/s） 地表面粗度区分（　Ⅲ　） ⊙積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表（　２１　）
	⊙ 環境への配慮	(1.4.1)［1.4.1］ 1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジーnーブチル及びフタル酸ジー２ーエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④ 建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	⊙ 材料の品質等	(1.4.2)［1.4.2］ 1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4）本工事に使用する材料のうち、5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。 5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料 ・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ　・鉄骨柱下無収縮ﾓﾙﾀﾙ ・無収縮ｸﾞﾗｳﾄ材　・乾式保護材 ・既製調合ﾓﾙﾀﾙ(ﾀｲﾙ工事用)　・既製調合目地材 ・ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ　・吸水調整材　・錠前類　・クローザ類 ・自動扉機構　・自閉式上吊り引戸機構(手動開き式) ・重量ｼｬｯﾀｰ　・軽量ｼｬｯﾀｰ　・ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ ・防水剤・現場発泡断熱材(特定のﾌﾛﾝによるものを除く) ・ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ　・可動間仕切　・移動間仕切　・ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ ・煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材　・天井点検口　・床点検口 ・ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ　・屋上緑化用ｼｽﾃﾑ　・ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ ・ｴﾎﾟｷｼ樹脂　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・鋳鉄製ふた
2章 仮設工事	⊙ 足場その他	(2.2.4) 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
3章 土工事	⊙ 埋戻し及び盛土	(3.2.3) 材料及び工法 ・材料　（　　　　　　）工法（　　　　　　） ※ 表3.2.1による 種別 ・Ａ種　適用場所（　　　　　　　　） ⊙Ｂ種　適用場所（土間スラブ下　） ・Ｃ種　適用場所（　　　　　　　　）　土質（　　　　） 受渡場所（　　　　　　　　） ・Ｄ種　適用場所（　　　　　　　　） 品質　細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50％未満とする
	⊙ 山留めの撤去	(3.3.3) 鋼矢板等の抜き後の処理 ※直ちに砂等で充填する 山留めの存置　・行う　（存置範囲　※図示　・　　　） ・
4章 地業工事	⊙ 支持地盤等	(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4、5)(4.4.4)(4.5.5、6) ⊙杭基礎 支持層の位置及び土質（基礎杭の先端位置含む） ⊙図示による（S-015,016）　・ ・直接基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む） ・図示による（　　　　）　・ ・試験掘り（根切り底の状態の確認等） ・行わない　・行う 位置等　・図示による（　　　　　） ・地盤の載荷試験 載荷試験の方法　・　地盤工学会基準　JGS 1521による ・ 試験の位置、載荷荷重　・図示による（　　　　） ・
	⊙ 既製コンクリート杭地業	(4.2.2)(4.3.1、3～6、8) 種類等 ⊙遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) SC杭の鋼管材料 ・SKK400　・SKK490 ・

		種類	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度(N/mm²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(m)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭									
本杭	上杭 中杭 下杭				(S-001による)					

杭先端部形状
⊙開放形　・半開放形　・閉そく形
工法
・セメントミルク工法
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　　　　）
掘削深さ
・図示による（　　　　　）
杭の支持層への根入れ深さ
・図示による（　　　　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
・1/100以内　・
根固め液及び杭周固定液の管理試験
・
・標準仕様書4.3.4(6)(a)～g)による

⊙特定埋込杭工法（S-001による）
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが下記の値を採用できる工法
α=(　　　)、β=(　　　)、γ=(　　　)
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
杭周固定液
・使用する　・使用しない
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　　　　）
杭の支持層への根入れ深さ
・図示による（　　　　　）

杭の精度
水平方向の位置ずれ
⊙杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
⊙1/100以内

杭の継手の工法
・アーク溶接継手
溶接材料
・　標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・
⊙無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法
検査　※評定等により定められた項目
施工　※評定等をされた施工管理基準による
杭頭の処理等
・処理しない　⊙処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
⊙図示による（　S-006,007,101,201　）　・
杭頭の中詰め材料
⊙基礎のコンクリートと同調合のもの　・

章	項　目	特　記　事　項
	・ 鋼杭地業	(4.2.2)(4.3.8)(4.4.3～6) 鋼杭の材料 ・　　　　　　　・ 寸法、継手等

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(m)	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本杭	上杭 中杭 下杭								

施工方法
・特定埋込杭工法（S-035による）
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが下記の値を採用できる工法
α=(　　　)、β=(　　　)、γ=(　　　)
工法
・中掘り拡大根固め工法　・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（　　　　）　・
杭の根入れ長さ
・図示による（　　　　）　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
杭の傾斜
・1/100以内

杭の継手の工法
・溶接継手
形状　・JIS A 5525による
溶接材料
・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による

・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法
検査　※評定等により定められた項目
施工　※評定等をされた施工管理基準による
杭頭の処理等
・処理しない　・処理する

処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　S-035　）　・
杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806-79号　管理建築士　田中　晃
【1級建築士登録】
第298917号　高橋　良
（仮称）小国町次期総合センター建設工事
特記仕様書(1)
DATE 2023.04　SCALE NS
PROJECT NO H22130
DRAWING NO A-001

・ 場所打ちコンクリート杭地業

工法 (4.2.2)(4.5.1、4〜6)
- ・アースドリル工法
  - 安定液　※使用する　・使用しない
- ・リバース工法
- ・オールケーシング工法
  - 孔内の水張り　・行う　・行わない

併用する工法
- ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
  - 鋼管巻き材料
  - ・SKK400　・SKK490
- ・拡底杭工法
  - 安定液　・使用する　・使用しない
- ・

寸法等

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	ｾｯﾄ数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭
- 試験杭の位置
  - ・図示による（　　　）　・

孔壁の保持状況（孔壁測定）
- 測定箇所
  - ・試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所

杭の支持層への根入れ深さ
- ・図示による（　　　）

杭の精度
- 水平方向の位置ずれ
  - ・杭径の1/4かつ100mm以下
- 杭の傾斜
  - ・1/100以内

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径（mm）	備考
・ SD295A		
・ SD345		

帯筋　・図示による（　　　）　・
鉄筋の最小かぶり厚さ　・100mm　・
鉄筋かごの補強
- ・
- ・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50〜75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋と接触部を溶接する

組み立てた鉄筋の節ごとの継手
- ※重ね継手
  - 重ね継手の長さ　・図示による（　　　）
- ・

主筋の基礎底盤への定着長さ
- ・図示による（　　　）　・

セメントの種類
- ※高炉セメントB種 G　・

コンクリートの設計基準強度
- ・図示による（　　　）　・

コンクリートの種別
- ・A種　・B種　・評定等の内容による

スランプ
- ・　※18cm

構造体強度補正
- ※３N/mm²
- ・図示による（　　　）
- ・評定等の内容による

⊙ 砂利地業

材料 (4.6.2、3)
- ⊙再生クラッシャラン G
- ・切込み砂利又は切込み砕石

砂利厚さ及び範囲

厚さ	範囲
⊗ 60	地中梁
⊙ 80	土間スラブ
⊙ 100	基礎
・ 110	
⊙ 150	ピットスラブ

⊙ 捨コンクリート地業

厚さ及び範囲 (4.6.4)

厚さ	範囲
⊗ 50	地中梁、土間スラブ、ピットスラブ
⊙ 90	基礎

設計基準強度及びスランプ
- 設計基準強度　※18N/mm²　・
- スランプ　※15cm又は18cm　・

⊙ 床下防湿層 (4.6.2、5)

材料　※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上
範囲
- ⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）
- ・

・ 地盤改良

種類及び施工方法等
- ・図示による（　　　）
- ・

・ 置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等　・図示による（　　　）
支持地盤の長期設計支持力　・（　　　）kN/m²
支持地盤　・図示による（　　　）
型枠使用の有無
- ・無し
- ・有り　型枠の使用箇所等は図示による（　　　）

5章 鉄筋工事

⊙ 鉄筋

鉄筋の種類等 (5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
⊙ SD295A	※ D16以下	
⊙ SD345	※ D19〜D25	
・ SD390	※ D29以上	

・ 溶接金網

鉄線の形状等 (5.2.2)

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
・ 溶接金網		3.2φ-50	階段
・ 鉄筋格子			

⊙ 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法 (5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

部位	継手の方法	呼び径
柱、梁の主筋	⊙ ガス圧接　・機械式継手　・溶接継手	
耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手　・	
その他の鉄筋（床）	⊙ 重ね継手　・	

継手位置
- ⊙図示による（S-002〜004　5(1),6(1),7(2),8(1)）

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
- ⊙図示による（S-002　2(3)）
- ・
- ・

耐力壁の重ね継手の長さ
- ・
- ・
- ・

鉄筋の定着長さ
- ⊙図示による（S-002〜004　5(1),6(2),7(1),7-1,8(1),9(1),10(1),10(2)）

⊙ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

最小かぶり厚さ (5.3.5)
- ⊙図示による（S-002　2(4)）
- ・

耐久性上不利な箇所がある場合（塩害を受けるおそれのある部分等）
- ・あり　使用箇所（　　　）
  - ・最小かぶり厚さに加える厚さ（　　）mm

⊙ 各部配筋 (5.3.7)

⊙図示による（S-002〜004　　　）
・

⊙ 圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10)

試験
- ※超音波探傷試験
- ・引張試験
  - 試験方法等
  - ※標準仕様書5.4.10(ｲ)(b)①〜⑥による

・ 機械式継手 (5.5.2)

適用箇所
- ・図示による（　　　）

H12建告第1463号に適合する性能
- ・A級

機械式継手の種類
- ・図示による（　　　）

・ 溶接継手 (5.6.3)

適用箇所
- ・図示による（　　　）

H12建告第1463号に適合する性能
- ・A級

溶接継手の工法
- ・図示による（　　　）

6章 コンクリート工事

⊙ コンクリートの種類

コンクリートの類別 (6.2.1)
- ※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
- ・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

⊙ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

⊙ 普通コンクリート (6.2.1〜4)(6.3.2)(6.10.1、2)

設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m³)	適用箇所
⊙ 24	・18 ※標準仕様書6.2.2による	・2.3	建物基礎周り躯体全般
⊙ 21	・18	・2.3	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ ﾃﾞｯｷｺﾝｸﾘｰﾄ

構造体強度補正値　・　※標準仕様書表6.3.2による

⊙ セメント

種類 (6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種	建物躯体
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種 G	
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種 G	

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が 7日目で 352J/g 以下かつ 28日目で 402J/g 以下のものとする。

⊙ 骨材

使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)
- ※A　・B

⊙ 混和材料 (6.3.1)

混和剤の種類
- ・ 標準仕様書 6.3.1(4)(a)による

混和材の種類
- ・ 標準仕様書 6.3.1(4)(b)による

・ 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
- ・　※普通コンクリート

セメントの種類
- ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
- ・高炉セメントB種 G
- ・フライアッシュセメントB種 G

設計基準強度
- ・　※18(N/mm²)

スランプ
- ・　※15cm又は18cm

適用箇所
- ・　※標準仕様書 6.14.1(4)(ｱ〜ｶ)による

⊙ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)
- ・図示による（　　　）
- ⊙計画書を提出し監督職員の承認を得ること。

目地寸法
- ⊙標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)〜(ｳ)・図示による（　　　）

ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
- ※図示による（A-025）

⊙ 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種　別	適 用 箇 所
⊙ A種	外壁塗装仕上下地
・ B種	
⊙ C種	現場発泡断熱材下地、ピット内

コンクリートの仕上りの平たんさ

種　別	適 用 箇 所
⊙ a種	外壁塗装仕上下地
・ b種	
⊙ c種	現場発泡断熱材下地、ピット内

⊙ 打増し厚さ（打放し仕上げ部） (6.8.1)

ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
- ・20mm　⊙25mm

ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
- ・10mm　・20mm

・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面の打増し処理

床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄを使用する場合は、ﾌﾟﾚｰﾄが支持される梁の側面については、打増しを行うこと。
- ｺﾝｸﾘｰﾄの打増し厚さ　※10mm
- 施工範囲　※図示による（　　　）

⊙ 型枠

せき板の材料及び厚さ G (6.8.2)
- ⊙合板（・　※12mm）

MCR工法用のシート
- 適用箇所　・図示による

スリーブの材種・規格等
- ・図示による

・ 断熱材兼用型枠

使用箇所　※図示による (6.8.2)
厚さ　20〜40mm
熱抵抗値 0.73m²K/W以上を有するものとする。建築技術評価「断熱材兼用型枠工法の開発」において評価を取得したもの、又は同等以上とする。

・ コンクリートの単位水量測定

実施要領
- ※図示による（構造関係共通図（構造関係共通事項））

7章 鉄骨工事

⊙ 鉄骨製作工場 (7.1.3)

鉄骨製作工場の加工能力
- ・ 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(H)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
- ⊙ 監督職員の承諾する製作工場

⊙ 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.4)

⊙配置する　・配置しない

⊙ 鋼材

種類等（S-001,S-117,S-118,S-213,S-214による） (7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格等
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による

⊙ 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)

高力ボルトの種類
- ⊙トルシア形高力ボルト
- ・JIS形高力ボルト
- ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
- ⊙図示による（S-117〜119, 213〜216）
- ・

摩擦面の処理方法
- ・
- ・自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態）
- ⊙ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）

すべり試験の実施
- ・すべり係数試験　・すべり耐力試験
- すべり試験において、対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況の確認をする

⊙ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料等 (7.2.3)(7.3.2、8)
- ⊙標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
  - ボルトの規格は、JIS B 1180とする。
  - ボルトの種類は呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。
  - ボルトの強度区分は4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。
  - ナットの規格は、JIS B 1181とする。
  - ナットの種類は、六角ナット—C、材料は、鋼製とする。

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
- ⊙図示による（S-117〜119, 213〜216）
- ・

母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
- ・　※ねじの呼び径+1.0mm

⊙ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
- ・図示による（S-117〜119, 213〜216）

摩擦面の処理方法
- ⊙ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
- ・りん酸塩処理

すべり試験の実施
- ・すべり係数試験　・すべり耐力試験
- すべり試験において、対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況の確認をする

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806−79号　管理建築士　田中　晃
【1級建築士登録】
第298917号　高橋　良
（仮称）小国町次期総合センター建設工事
特記仕様書(2)
DATE 2023.04
SCALE ＮＳ
PROJECT NO Ｈ２２１３０
DRAWING NO Ａ−００２

⊙ アンカーボルト

(7.2.4)(7.3.2)

⊙構造用アンカーボルト
　種類
　　⊙ABR400　・ABR490　⊙ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ柱脚工法
⊙建方用アンカーボルト
　種類
　　⊙SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上の程度
　・　　　　　　※標準仕様書 表7.2.3による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
　⊙図示による（S-117～119, 213～216）
　・

⊙ 溶接材料

(7.2.5)

溶接材料
・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・

⊙ ターンバックル

(7.2.6)

種類
　建築用ターンバックルボルト
　　・　　　　　※羽子板ボルト
　建築用ターンバックル胴
　　・　　　　　※割枠式
ねじの呼び
　⊙図示による（S-117,213）　・

⊙ 床構造用のデッキプレート

(7.2.7)(7.7.8)

材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法
・ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ単独の構法		
⊙ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成ｽﾗﾌﾞとする構法	床	ﾊｲﾊﾟｰﾃﾞｯｷ H=120 t=1.2 山上90

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
　⊙図示による（　S-014　）　・
鉄骨部材への溶接方法
　⊙図示による（　S-014, S-213　）　・
耐火認定
　・なし
　⊙あり
　　耐火時間　※図示による（　S-014　）　・

⊙ スタッド

(7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・ 16	・　・　・　・	
⊙ 19	⊙110　⊙150　・　・	大梁・小梁
・ 22	・　・　・　・	

⊙ 柱底均しモルタル

(7.2.9)

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等
　・
　※標準仕様書 7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による

⊙ 製作精度

(7.3.3)

鉄骨の製作精度は、JASS 6付則6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による
　通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
　　※H12建告第1464号第二号イ(2)による
　アンダーカットの寸法
　　※H12建告第1464号第二号イ(3)による
　食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
　　※「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

・ 仮組

(7.3.10)

仮組を行う範囲
　・図示による（　　　）　・

・ 溶接技能者の技量付加試験

(7.6.3)

試験の要領
　・図示による（　　　）　・

⊙ 溶接施工

(7.6.4、7)

開先の形状
　⊙図示による（S-005）
　・
エンドタブの切断する部分
　切断する箇所
　　・図示による（　　　　　）
　切断範囲
　　・
　　・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
　切断面の仕上げ
　　・
　　※標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による

スカラップの形状
　⊙図示による（S-005）

⊙ 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
　・
　・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図)1-4）
適用箇所
　・図示による（　　　）
　・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⊙ 溶接部の試験

(7.6.2)

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等
　・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
　・抜き取り検査①　※抜き取り検査②
JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
　・JASS6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。
　　外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
　・ 工場溶接の場合
　　AOQL(%)　※ 4.0　・ 2.5

節	・ 全て	・	・	・
検査水準	※ 第6水準	・	・	・

　・ 工事現場溶接の場合
　　※全て

⊙ 錆止め塗装

(7.8.2、4)(18.3.2)

塗料の範囲
　耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
　⊙図示による（　　　　）　・
　耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
　⊙図示による（　　　　）　・
塗料の種別
　⊙鉄鋼面の錆止め塗料の種別
　　屋外　・　　　　　※A種
　　屋内　・　　　　　※A種
　・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料の種別
　　・
　・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
　　・JIS K 5674　・A種
　・ 耐火被覆が接着する面の塗料の種別
　　・
　⊙ 耐火塗料を施す面の塗料の種別
　　・耐火塗料メーカーの指定品とする

⊙ 耐火被覆

(7.9.2～8)

種類、材料、工法等

種　類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
⊙耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	⊙半乾式吹付けロックウール	1時間	図示
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
⊙耐火板張り	⊙繊維混入けい酸カルシウム板	1時間	図示
	・		
⊙耐火材巻付け	⊙高断熱ロックウール	1時間	図示
	・		
ラス張りモルタル塗り	―		
⊙耐火塗料		1時間	図示

⊙ アンカーボルトの設置等

(7.10.3)

構造用アンカーボルトの形状及び寸法
　・図示による（　　　　）
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
　・図示による（　　　　）
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
　・図示による（　　　　）
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
　種別　・A種　・B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
　厚さ・　　種別　・B種　※A種

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

・ 補強コンクリートブロック造

(8.2.2、3、5)

ブロックの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・				・無 ・有		
・				・無 ・有		

モルタルの調合（容積比）
　・セメント（　　　）：砂（　　　）
各部の配筋
　・図示による（　　　　）
モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲
　・図示による（　　　　）

・ コンクリートブロック帳壁及び塀

(8.3.2、3、4)

ブロックの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾃﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・空洞ブロック C-(16)				・無 ・有		
・型枠状ブロック 20				・無 ・有		
・						

塀の厚さ
　・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
　・図示による（　　　　）
各部の配筋
　・図示による（　　　　）

・ ALCパネル

(8.4.2～5)

パネルの区分	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル		・100 ・			有（1）時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種
・間仕切壁パネル		・100 ・			・有（1）時間 ・無	・平 ・意匠	・C種 ・D種 ・E種
・屋根パネル		・100 ・			有（0.5）時間	平	F種
・床パネル		・100 ・			有（　）時間		

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
　・
外壁、屋根パネルの構法
　・建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　・パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
　・パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅（mm）　・　※10～20
　・外壁、間仕切壁パネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

・ 押出成形セメント板（ECP）

(8.5.2～5)

パネルの種類	形状	厚さ（mm）	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F	・50 ・60 ・	600	・A種 ・B種	
	・D	・50 ・60			
	・T	60			
・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60 ・		・B種 ・C種	
	・D	・50 ・60			
	・T	60			

外壁パネルの工法
　・建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　・パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
　・パネル相互の目地幅（mm）　・長辺15　短辺20　・

出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※15

パネルには原則として欠き込み加工を行わない。やむを得ず欠き込み等を行う場合は、強度計算を行い、施工計画書を提出して監理者の承認の後、施工すること。

9章 防水工事

・ アスファルト防水

(9.2.2～5)(表9.2.3～9)

屋根保護防水
　防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート	立上り部保護方法
・A－1			※ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上 ・	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え（・ ※JIS R 1250）
・A－2				
・A－3				
・B－1				
・B－2				
・B－3				
・AⅠ－1		（種類）※ JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）（厚さ）・　・25mm ・50mm	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・	
・AⅠ－2				
・AⅠ－3				
・BⅠ－1				
・BⅠ－2				
・BⅠ－3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　用途　による区分
　材料構成による区分　・　　　※R種
　厚さ　　　　　　　　・　　　mm以上
　※標準仕様書表9.2.3から表9.2.8による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　用途　による区分
　材料構成による区分　・　　　※R種
　厚さ　　　　　　　　・　　　mm以上
　※標準仕様書表 9.2.5から表 9.2.8による
平場の保護コンクリートの厚さ
　こて仕上げ　※水下　80mm以上
　床タイル張り　※水下　60mm以上

・乾式保護材
　窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
　金属複合板　：金属板と樹脂を積層一体化させたもの。
（品質・性能）

分類・規格		・窯業系パネル Ⅰ類（寒冷地仕様）	・窯業系パネル Ⅱ類（一般地仕様）	・金属複合板
寸法（mm）	厚さ（mm）			
	幅（mm）			
寸法の許容差		厚さ：＋10%、－5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		―
曲げ強さ・曲げﾓｰﾒﾝﾄ（N･cm）（スパン40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げモーメント）	標準時	550 以上	450 以上	300 以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400 以上（300）	320 以上（200）	250 以上（300）
吸水率（%）		20 以下	20 以下	1 以下
吸水による長さ変化率（%）		0.07 以下	0.07 以下	0.01 以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと		
耐衝撃性能		質量500g（窯業系パネルⅠ類は1,000g）のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと		質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1／100以下かつ加圧時の最大変形量1／100以下
剛性（E×I）（スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性）		―	―	80,000N･cm^2以上

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所 山形県知事登録 第1806－79号 管理建築士 田中 晃
【1級建築士登録】第298917号 高橋 良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

特記仕様書(3)

DATE	SCALE
2023.04	NS
PROJECT NO	H22130
DRAWING NO	A-003

（試験方法）

（１）寸法の測定方法

（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。

（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。

（２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験後100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。

（３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

（４）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。

その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。

24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る。

吸水による長さ変化率（ΔL）は、次式によって求める。

$$(\Delta L) = (L2 - L1) / L1 \times 100$$

ΔL：吸水による長さ変化率（％）
L1：乾燥時の標線間の長さ（mm）
L2：吸水時の標線間の長さ（mm）

（６）耐凍結融解性試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

（７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験方法に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S_2 対辺単純支持方法による。

試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは鋼製のなす形おもりとし、記号（W・－1000）、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G
・D－1			・ ・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様	・ ※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様	・
・D－2					・
・D－3					・
・D－4					・
・DI－1		標準仕様書9.2.2(9) （種類）・ （厚さ）・　・25mm			・
・DI－2					・

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種　類　・　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
設置数量　・　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

屋内防水
防水層の種別

種　別	施工箇所	種　別	施工箇所
・E－1		・E－2	

保護層　・設ける（※図示　・　）・設けない

防水層の下地の立上り
・
※コンクリート打ち放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4［打放し仕上げ種別］のB種

押え金物の材質、形状及び寸法
・
※アルミニウム製　L－30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り
・適用する（施工範囲　※図示　・　）
・適用しない

屋上排水溝
・適用する（施工範囲　・図示　・　）
・適用しない

・改質アスファルトシート防水

(9.3.2、3)(表9.3.1～3)

防水層の種別
※ノンケトル冷熱併用工法（製造所仕様による）

種別	施工箇所	断熱材G	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G
・AS－T1				・ ・改質アスファルトシートの製造所の仕様	・ ※改質アスファルトシートの製造所の仕様	・
・AS－T2						・
・AS－T3						・
・AS－T4						・
・AS－J1						・
・ASI－T1		標準仕様書9.3.2(3)(ウ) （種類）・ （厚さ）・　・25mm	・設ける（改質アスファルトシートの製造所の仕様による） ・設けない			・
・ASI－J1						・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分　・R種
厚さ　・　mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分　・R種
厚さ　・　mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分　・R種
厚さ　・　mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

押え金物の材質、形状及び寸法
・　※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　・　※改質アスファルトシートの製造所の指定
数量　・　※改質アスファルトシートの製造所の指定

⊙合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表9.4.1～3)

防水層の種別

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G
・S－F2		・ ※発泡ポリエチレンシート		・ ・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ ※ルーフィングシートの製造所の仕様	・
・S－M1				・ ・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ ※ルーフィングシートの製造所の仕様	・
⊙S－M2	キャノピー屋根					⊙
・S－M3						・
・SI－F1		・ ※発泡ポリエチレンシート	標準仕様書9.4.2(3)(エ)(b) （種類）・硬質ウレタンフォーム （厚さ）・25mm　・35mm	・ ・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ ※ルーフィングシートの製造所の仕様	・
・SI－F2						・
・SI－M1			標準仕様書9.4.2(3)(エ)(a) （種類）・硬質ウレタンフォーム （厚さ）・25mm　・50mm　・100mm	・ ・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ ※ルーフィングシートの製造所の仕様	・
・SI－M2		※発泡ポリエチレンシート		・ ・ルーフィングシートの製造所の仕様	・ ※ルーフィングシートの製造所の仕様	・

ＳＩ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ２、ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２における防湿用フィルムの設置
・設ける　・設けない

Ｓ－Ｍ２またはＳＩ－Ｍ２の立上り部の工法
⊙接着工法　立上り面のシート厚さ　・　※1.5mm
・機械的固定方法

防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚	保護層 平場のモルタル塗り	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S－C1	・	・	・床塗り工法 ・下地モルタル塗り ・	・ ※7mm以下

平場モルタルの塗りの目地割り及び種類
目地割り　・　※２m2程度　最大目地間隔３m程度
目地の種類　・　※押し目地

ルーフィングシートの種類及び厚さ
種類　・　厚さ
※標準仕様書表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※ルーフィングシートの製造所の仕様
設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様

固定金具の材質、形状及び寸法
・
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法においてプレキャストコンクリート部材下地目地処理
・行う（・図示　・　）

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示　・　）

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

・塗膜防水

(9.5.3)(表9.5.1、2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	防湿層	高日射反射率防水の適用G
・X－1		・ ・主材料の製造所の仕様	・ ※主材料の指定による		・
・X－2	図示	・ ・主材料の製造所の仕様	・ ※主材料の指定による		・
・Y－1	※地下外壁防水 ・				
・Y－2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
種類　・　※主材料の製造所の仕様
数量　・　※主材料の製造所の仕様

ゴムアスファルト系塗膜防水Ｙ－１、Ｙ－２
工程数及び各工程の使用量
・　※主材料の製造所の仕様

・ケイ酸質系塗布防水

(9.6.1、3,4)(表9.6.1、2)

防水層の種別

種　別	施工箇所	種　別	施工箇所
・C－UI	図示	・C－UP	

防水層の下地
壁
※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4　B種）
壁
※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4　B種）

下地処理　コンクリートの打継ぎ箇所の処理
・図示
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mmにＶ形にはつり、水洗い清掃した後防水材の製造所の指定する材料を充填

⊙シーリング

(9.7.2、3.5)(表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外部各所	MS-2(ノンブリードタイプ)
内部各所	SR-1(抗菌・防カビタイプ)
ガラス廻り	SR-1(低汚染タイプ)

シーリング材の目地寸法
・図示　※標準仕様書9.7.3(1)(ア)～(ウ)による

接着性試験　※簡易接着性試験　・引張接着性試験

10章　石工事

⊙施工

(10.1.3、5)

石材の割付け　⊙図示

粗面仕上げの場合のの休み込みとなる部分の仕上げ
・図示

屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・行う（適用箇所　・すべて　・　）
・行わない

⊙石材等

(10.2.1、3)(表10.2.1、2)

天然石

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法(mm)	厚　さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石 ・定礎石 ・床見切 ⊙外部床	花崗岩	・1等品 ※2等品	⊙図示 ※正方形に近い矩形（石材１枚の面積が0.8m²以下）	⊙図示	⊙図示	

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上面による区分	寸法(mm)	仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	・ ※ 1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	・ ※ 1.5～12	・300型 ・400型		

取付け用モルタル・
※専門工事業者の指定する製品

既調合の目地モルタル・
※専門工事業者の指定する製品

石裏面処理材・
※専門工事業者の指定する製品

裏打ち処理材・
※専門工事業者の指定する製品

金物の固定に使用する充填材料等・
※専門工事業者の指定する製品

・外壁湿式工法

(10.2.2、3)(10.3.2、3)

受金物　材質　・　※SUS304
形状及び寸法　・L-75×75×6（mm）の加工　長さ 100mm
・L-75×75×6（mm）の加工　長さ 150mm

アンカーの材質及び寸法　・　※ SS400 M12

あと施工アンカーの材質及び寸法等（　）

ドレンパイプの材質　・樹脂ネット製パイプ
クロスメッシュ巻き　25～35φ

石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※流し筋工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法

目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
シーリング材　・適用する
・適用しない

伸縮調整目地
位置　・図示　※標準仕様書表11.1.1 による
シーリング材の目地寸法
・図示　※幅・深さとも10mm

・内壁空積工法

(10.2.2)(10.4.2、3)

受金物　材質　・　※SUS304
形状及び寸法　・L-75×75×6（mm）の加工　長さ 100mm
・L-75×75×6（mm）の加工　長さ 150mm

アンカーの材質及び寸法　※SS400 M12

あと施工アンカーの材質及び寸法等（　）

石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー　・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806－79号　管理建築士　田中　晃
【1級建築士登録】
第298917号　高橋　良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事
特記仕様書(4)
DATE 2023.04　SCALE ＮＳ
PROJECT NO Ｈ２２１３０
DRAWING NO Ａ-００４

目地　一般目地　目地幅(mm)　　・　　※6以上
シーリング材　・適用する
・適用しない
伸縮調整目地
位置　・図示　※6m程度ごと
シーリング材の目地寸法
・図示　※幅・深さとも10mm

・乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
（・　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
取付け方式　・スライド方式　・ロッキング方式
アンカーの材質及び寸法
・　　※ステンレス（SUS304）M10
あと施工アンカーの材質及び寸法等（　　　　　　）
だぼ用の穴の位置　・図示
※標準仕様書10.5.2.(2)(7)による
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地　目地幅(mm)　・　※8以上
シーリング材　・図示　※標準仕様書9.7による

・床及び階段の石張り

(10.6.2、3)
床石張りの石裏面処理　・適用する　・適用しない
階段石張りの石裏面処理　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)・図示
・屋外4以上　・屋内3～6
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地
位置　・
・図示
※床面積 30㎡ 程度ごと、細長い通路の場合 6m 程度ごと及び他の部材と取り合う箇所
シーリング材の目地寸法
・図示　※幅・深さとも10mm

・アーチ、上げ裏等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、2)
取付け工法　・内壁空積工法　・乾式工法
取付け金物　標準仕様書10.2.2(3)
材質　※ステンレス（SUS304）
寸法　引金物
だぼ
かすがい
受金物
ファスナーの方式　・スライド方式　・ロッキング方式

吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける
吊金物

※SUS304 径6mm 長さ80mm（加工物）
化粧吊りボルト

※SUS304 M10 化粧ナット付き
・設けない
あと施工アンカーの材質及び寸法　（　　　　　　）

石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　・　※6以上
伸縮調整目地　位置　・図示
※他の部位との取合い部
シーリング材の目地寸法
・　・図示　※幅・深さとも10mm

・笠木、甲板等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、3)
取付け工法　・外壁湿式工法　・乾式工法
取付け金物　標準仕様書10.2.2(3)
材質　※SUS304
寸法　引金物
だぼ
かすがい
受金物
ファスナーの方式　・スライド方式　・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　　　　　）

石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代
・　・70mm程度
石材の裏面の補強用モルタル　・適用する　・適用しない

11章 タイル工事

⊙伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)(表11.1.1)
位置　・図示　※標準仕様書表11.1.1による
目地寸法・図示　※標準仕様書表9.7.3による

⊙セメントモルタルによるタイル張り

(11.2.2、7)
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材料の適用Ⓖ	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
外部床	300角	・	⊙	・	・	・	⊙	⊙	・	⊙	・	⊙	・	⊙	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　⊙行わない
見本焼き　・行う　⊙行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（高圧水洗処理）・ＭＣＲ工法
壁タイル張りの工法
内装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り
・改良圧着張り　・ユニットタイル
外装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り
・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り
・モザイクタイル張り

既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能）

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/L以上
接着強さ	標準時	0.6N/mm²以上
	温冷繰り返し後	0.4N/mm²以上
長さ変化率		0.2%以下
曲げ強さ		4.0N/mm²以上

（試験方法）
（１）試料の調整
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定の量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5A ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（１）で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるよう静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率=50/平均値×100
（注）　50：リング型わくの内径　mm
（３）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイルの場合」
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る（全てが0.6N/mm²以上を確保していること。）
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JISA6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20℃±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さの試験方法と同様に行う。
（全てが0.4N/mm²以上を確保していること。）
（６）長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築下地調整塗材」の7.11曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、温度65±10%とする。

既製調合目地材
（品質・性能）

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下（収縮）
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.80kg/L以上

（試験方法）
（１）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5%RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（２）試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（３）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5Aろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、２）で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50/平均値×100
注）50：リング型わくの内径（mm）
（４）単位容積質量
（２）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。
（５）長さ変化率
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。
（６）吸水量
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

・有機系接着剤によるタイル張り

(11.3.2～4、7)
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法(mm)	再生材料の適用Ⓖ	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外

目地シーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材

ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材

伸縮調整目地　※変成シリコーン系シーリング材

その他の目地　※変成シリコーン系シーリング材

下地調整塗材を行うコンクリート素地面の処理
・ＭＣＲ工法　・目荒し工法（高圧水洗処理）
・

12章 木工事

・表面仕上げ

(12.1.4)(表12.1.1)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	・A種	壁見切、鴨居、敷居等
	・B種	押入れ内部
	・C種	
手加工	・H－A種	
	・H－B種	
	・H－C種	

・製材Ⓖ

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)
・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
床下地	杉	図示	・　※ 2級		※ A種　・ B種	・	・
			・　※ 2級		※ A種　・ B種		・
			・　※ 2級		※ A種　・ B種		・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛面	杉 ひのき	図示	・ ※ 上小節		※ A種　・ B種		・
見え掛り面以外			・ ※ 小節以上		※ A種　・ B種		・
					※ A種　・ B種		・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			※ 1級		※ 10%以下 ・ A種　・ B種		・
			※ 1級		※ 10%以下 ・ A種　・ B種		・
			※ 1級		※ 10%以下 ・ A種　・ B種		・

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所 山形県知事登録 第1806-79号 管理建築士 田中 晃
【1級建築士登録】
第298917号　高橋 良
（仮称）小国町次期総合センター建設工事
特記仕様書(5)
DATE 2023.04
SCALE ＮＳ
PROJECT NO Ｈ２２１３０
DRAWING NO Ａ-００５

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　) 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・
			(　　) 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・
			(　　) 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・

・造作用集成材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				※1等 ・2等	・
				※1等 ・2等	・
				※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等	・
	化粧薄板： 芯材：					・
	化粧薄板： 芯材：					・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				・
	化粧薄板： 芯材：				・
	化粧薄板： 芯材：				・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				・ ※15%以下	・
				・ ※15%以下	・
				・ ※15%以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・
	化粧薄板： 芯材：				・ ※15%以下	・

・造作用単板積層材 G

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無 (等級：　)	・適用する ・適用しない	・
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無 (等級：　)	・適用する ・適用しない	・

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無 (　)	・ ※14%以下	・適用する ・適用しない	・
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無 (　)	・ ※14%以下	・適用する ・適用しない	・

・ＣＬＴ（直交集成板）G

施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)	間伐材等の適用
							・
							・

・床張り用合板等

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

⊙普通合板 G

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
フローリング下地	⊙12 ※5.5	カラマツ	※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ⊙適用しない	・

・構造用合板 G

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	・1級 ・2級以上		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・24	・適用する ・適用しない	・適用する (　) ・適用しない	・
	・1級 ・2級以上		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する (　) ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			・1類 ・特類		・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理の適用
		5.5mm	・1類 ⊙2類	・適用する (　)

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・1類 ・2類			・適用する (　)	・

・パーティクルボード G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		・ ※13タイプ	・ ※Ｐ又はＭ		・ ※15

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ (mm)
	・１級 ・２級 ・３級 ・４級	
	・１級 ・２級 ・３級 ・４級	

・ＭＤＦ G

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

・接着剤

(12.2.2、3)

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

・防腐防蟻処理

(12.3.1、2)

・防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位：（　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

・薬剤の塗布による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	・ ・標準仕様書12.3.1(ｲ)(ｲ)(b)①～④による	※JIS K 1571に適合又同等品
	・	

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部位：（　）

13章 屋根及びとい工事

・長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考
	・ ※JIS G 3322の屋根用コイル			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材（・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ）
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
雪止め ・設置する（施工箇所 ・図示 ・　）

⊙折板葺

(13.3.2)(13.3.2、3)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能
倉庫棟	・重ね形 ⊙はぜ締め形 ・かん合形	170	500	( )種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製	0.8	⊙有り ・無し	⊙30分 ・無し
	・			・	・			

材料 板及びコイルの種類（JIS G 3322の屋根用コイル）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号
（ AZ150 ）
タイトフレーム にJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理
（※標準仕様書表14.2.2による ・Ｅ種 ・Ｆ種）
断熱材 ⊙有り
（種別：図示 厚さ ：100mm 防火性能：耐火30分）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め
・ ※けらば包みによる方法

・粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない

JISA5208に基づく凍害試験等 ・行う ・行わない
瓦桟木 材質 ・ ※杉
寸法 ・ ※幅21×高さ15(mm)以上
金物等 材質、形状、寸法及び留付け方法
・ ※図示
棟補強用心材 材質 ・ ※杉
寸法 ・ ※幅40×高さ30(mm)以上
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
瓦桟木の留付け工法 ※図示
棟の工法
※標準仕様書13.4.3(4)(ｱ)(ｲ)による

⊙とい

(13.5.2、3)(表13.5.5)

といその他の材種
・配管用鋼管 ⊙水道用亜鉛メッキ鋼管
とい受金物
材種 ⊙ステンレス ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状 ・ ※市販品（とい径100以下）
25×4.5（とい径100を超えるもの）
取付け間隔 ⊙１ｍ程度
足金物
材種 ⊙ステンレス ※溶融亜鉛めっきを行ったもの
形状 ・ ※市販品（とい径100以下）
取付け間隔 ⊙２ｍ程度
防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
多雪地域 ⊙適用する ・適用しない
鋼管製といの防露巻き
・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.4による ・ ）
⊙適用しない

ルーフドレンの材種その他

種別	施工箇所	材種
⊙ろく屋根用 (⊙縦型 ・横型)	図示	ステンレス鋳鋼製
・バルコニー用		
・バルコニー中継用		

14章 金属工事

・ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
※ＨＬ程度	
・鏡面仕上げ 程度	
・No.2B 程度	

⊙アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
・BA-2種	・標準色 ・特注色	
・BB-1種		
⊙BB-2種	⊙標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法・ ※二次電解着色

⊙鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
⊙溶融亜鉛めっき	⊙Ａ種	・板厚6mm以上の部材
	⊙Ｂ種	・板厚3.2mm以上の部材
	⊙Ｃ種	・板厚1.6mm以上の部材
・電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

⊙軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4)(表14.4.1)

野縁等の種類 屋外 ・ ※25形
屋内 ・ ※19形
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔
・図示
周辺部の端からの間隔 ・図示
野縁の間隔 ・図示
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ・ ・図示
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法 ・図示
※標準仕様書14.4.4(8)による
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ・ ・図示
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ・ ・図示
補強方法 ・ ・図示

⊙軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)(表14.5.1)

スタッド、ランナーの種類
・ ※標準仕様書表14.5.1による
スタッドの高さによる区分に応じた種類
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ・製造所仕様⊙図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
・ ※標準仕様書表14.5.4(5)による

⊙金属成形板張り

(14.6.2,3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	寸法 (mm)	板厚 (mm)	表面処理 種別	色合い等
⊙アルミニウム	⊙押出し ・ロール	スパンドレル形	図示	図示	⊙C種(ふっ素樹脂焼付塗装) ・	指定色
	・プレス ・	パネル形			・ ・	
・スチール	・ロール	スパンドレル形			・ポリエステル樹脂焼付塗装	標準色

取付け用下地 ・ ※標準仕様書14.4 による
伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ・図示 ・ ）
・設けない

⊙ アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種類　・250形　・300形　・350形　⊙図示

表面処理　種別（BB-1）種
　色合い等（⊙標準色　・特注色　）

笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（⊙1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⊙ 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)

手すり　⊙SUS304
　表面処理　・　⊙HL程度
　・鋼製
　表面処理　・　※標準仕様書表14.2.2　C種

タラップ　⊙SUS304
　表面処理　・研磨なし　⊙HL程度
　・鋼製
　表面処理　・　※標準仕様書表14.2.2　C種

15章 左官工事

・モルタル塗り

(15.3.2、5)

モルタル　・現場調合材料　・既調合材料
　既調合材料（　）

既製目地材　・設ける　施工箇所（　）
　形状（※図示　・　）
　・設けない

床の目地　・設ける（目地割り　・
　※２㎡程度（最大目地間隔３ｍ程度 ）
　（種類　・　※押し目地）
　・設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
　・適用する　・適用しない

・防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A1404「建築用セメント防水剤試験方法」

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間　始発：1時間以上　終結：10時間以内） （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりに確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比　70%以上
吸水比	吸水比　95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比　80%以下。ただし、透水試験における水圧は、3.0×10^5 Paとし1時間行う

・ラス系下地

(15.2.4)

ラス系下地
　・通気構法単層下地
　　換気口部の防水処理
　・通気構法二層下地
　・直張りラスモルタル下地
　・直張りラスシートモルタル下地
　・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定
　（　）

ラスの材料
　素材による区分（　）
　種類（　）
　単位面積当たりの質量（　）

・セルフレベリング材塗り

(15.5.2)(表15.5.1)

・せっこう系　・セメント系

・仕上塗材仕上げ

(15.6.2)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外

仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
	・内装薄塗材C	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材L	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材Si	・	
	・内装薄塗材E	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材W	・	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Si	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材E	・	
	・内装厚塗材C	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材L	・	上塗材　・適用する　・適用しない
・厚付け仕上塗材	・内装厚塗材G	・	
	・内装厚塗材Si	・	
	・内装厚塗材E	・	
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
	・複層塗材Si	・	耐候性　・　※耐候形3種
	・複層塗材E	・	上塗材
	・複層塗材RE	・	溶媒　・　※水系
	・可とう形複層塗材CE	・	・溶剤系　・弱溶剤系
	・防水形複層塗材CE	・	樹脂　・　※アクリル系
	・防水形複層塗材E	・	外観　・　※つやあり
	・防水形複層塗材RE	・	・つやなし・メタリック
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・	
	・こて塗用軽量塗材	・	

・ＡＬＣパネルの場合の下地処理

(15.6.4)

内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き

・マスチック塗材塗り

(15.7.2)

種別　・Ａ種　・Ｂ種

・せっこうプラスター塗り

(15.8.3)

下塗り
　・既調合プラスター（下塗り用）
　・現場調合プラスター（下塗り用）
上塗り
　・既調合プラスター（上塗り用）
　・しっくい塗り

・ロックウール吹付け

(15.12.2、3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外
接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外
仕上げ吹付け厚さ（mm）　・図示　・25

・しっくい塗り

(15.10.2、3)

しっくい
　・現場調合材料　※標準仕様書15.10.2(1)(ｱ)による
　・既調合材料
　　・製造所（　）
　　・種類（　）
下地

　※木ずり、こまい土壁塗り、せっこうラスボード、せっこうボード
調合及び塗厚
　・木ずり下地の場合　※標準仕様書表15.10.1
　・こまい土壁下地の場合　※標準仕様書表15.10.2

・こまい壁塗り

(15.11.2、3、4、5、7、8)

のり
　・土壁用ののり　・ふのり　※つのまた　・ぎんなんそう
　　・粉末海藻　・
　・砂壁用ののり　※ふのり　・つのまた・こんにゃくのり
　　・にかわ　・合成樹脂系混和剤
色土
　・土物仕上げに用いる色土の種類（　）
　・大津仕上げに用いる色土の種類（　）
色砂の種類
　・天然砂と岩石の砕砂
　・人工的に着色・製造したもの
調合
　下塗りの場合
　　※標準仕様書表15.11.2
塗厚
　・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合
　（　）
　※標準仕様書表15.11.3による
工程　・　※Ａ種　・Ｂ種
・土物仕上げ
　・種類　・土物仕上げ工法
　　・水ごね土物１工法　・水ごね土物２工法
　　・のりさし土物工法　・のりごね土物工法
　　・砂壁仕上げ工法
　　・切返し仕上げ工法
・大津仕上げ
　・種類　・普通大津仕上げ工法　・大津みがき仕上げ工法

16章 建具工事

⊙ 防火戸

(16.1.3)

⊙建具表による

・見本の製作等

(16.1.4)

建具見本の製作
　・行う（建具符号：　）　・行わない
建具見本の程度
　・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
　・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組
　・行う（建具符号：　）　・行わない

・防犯建物部品

(16.1.6)

・適用する　（・建具表による　）・適用しない

⊙ アルミニウム製建具

(16.2.2、4、5)(表14.2.1)(表16.2.1)

性能値等
　耐風圧性の等級（　）気密性の等級（　）
　水密性の等級（　）
　外部に面する建具の種別
　　⊙A種（建具符号：・建具表による　⊙全て）
　　・B種（建具符号：・建具表による）
　　・C種（建具符号：・建具表による）
　　・D種（建具符号：・建具表による）
　　・E種（建具符号：・建具表による）
　・防音ドア・防音サッシ　遮音性の等級（・図示）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・断熱ドア・断熱サッシ Ⓖ 断熱性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
ステンレス鋼板　・　※SUS304、430J1L又はSUS443J1
枠の見込み寸法　・建具表による
表面処理
　外部に面する建具
　　種別　・BB-1　⊙BB-2（標準仕様書表14.2.1）
　　着色　⊙標準色　・特注色
　屋内の建具
　　種別　・BC-1　・BC-2　⊙BB-2（標準仕様書表14.2.1）
　　着色　⊙標準色　・特注色
結露水の処理方法　⊙図示
水切り板、ぜん板　⊙図示

・網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス（SUS316）製	・ ※0.25mm以上	・ ※16~18メッシュ
・防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	2.5mm	網目寸法　10mm

・樹脂製建具

(16.2.5)(16.3.2～5)

性能等級
　性能値等
　　耐風圧性の等級（　）気密性の等級（　）
　　水密性の等級（　）
　外部に面する建具
　　・A種（建具符号：・建具表による　・　）
　　・B種（建具符号：・建具表による　・　）
　　・C種（建具符号：・建具表による　・　）
　　・D種（建具符号：・建具表による　・　）
　　・E種（建具符号：・建具表による　・　）
　・防音ドア・防音サッシ
　　遮音性の等級（・Ｔ－１　・Ｔ－２）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・断熱ドア・断熱サッシ Ⓖ
　・断熱性の等級（・Ｈ－４　・Ｈ－５　・Ｈ－６　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
枠の見込み寸法　・建具表による
表面色　・標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　・　※図示
ガラス　・　※複層ガラス

⊙ 鋼製建具

(16.2.2)(16.4.2～4)(表16.4.2)

性能等級
　気密型ドアセット
　　⊙適用する
　　（建具符号：⊙建具表による　・　）
　　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性
　　⊙Ｓ－４（建具符号：・建具表による　⊙全て　）
　　・Ｓ－５（建具符号：・建具表による　・　）
　　・Ｓ－６（建具符号：・建具表による　・　）
　　・
⊙防音ドア　・防音サッシ　遮音性の等級（⊙図示）
　（建具符号：⊙建具表による　・　）
・断熱ドア　・断熱サッシ Ⓖ 断熱性の等級（・　）
　（建具符号：・建具表による　・　）
・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　）
　（建具符号：・建具表による　・　）
ステンレス鋼板　・　※SUS304、430J1L又はSUS443J1
鋼板類の厚さ(mm)　・　※標準仕様書表16.4.2による

・鋼製軽量建具

(16.2.2)(16.5.2～4)

性能等級
　簡易気密型ドアセット
　　・適用する
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　　・適用しない
　・防音ドア　・防音サッシ　遮音性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・断熱ドア　・断熱サッシ Ⓖ 断熱性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
材料　鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被膜鋼板
　・カラー鋼板・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板　・　※SUS304、430J1L又はSUS443J1
鋼板類の厚さ(mm)　・　使用箇所（　）
　※標準仕様書表16.5.1による
召合せ、縦小口包み板の材質　※鋼板

・ステンレス製建具

(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)

性能等級
　簡易気密型ドアセット
　　・適用する
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性
　　・Ｓ－４（建具符号：・建具表による　・　）
　　・Ｓ－５（建具符号：・建具表による　・　）
　　・Ｓ－６（建具符号：・建具表による　・　）
　　・
　・防音ドア　・防音サッシ　遮音性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・断熱ドア　・断熱サッシ Ⓖ 断熱性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
　・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　）
ステンレス鋼板　・　※SUS304、430J1L又はSUS443J1
表面仕上げ　※ＨＬ　・鏡面仕上げ
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

・木製建具

(16.7.2～4)

建具材の加工、組立時の含水率　・　※B種
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外

・フラッシュ戸
　表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 Ⓖ	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （・　※ラワン合板程度） 不透明塗料塗り （・　※しな合板程度） 板面の品質（　２等　） 接着の程度（・１類　・２類　）	
・天然木化粧合板 Ⓖ	樹種名（杉(金山産)　） 接着の程度（・１類　・２類　）	
・特殊加工化粧合板 Ⓖ	化粧加工の方法 （・オーバーレイ　・プリント・塗装　） 表面性能 （　）タイプ 接着の程度（・１類　・２類　）	

表面板の厚さ　・　※標準仕様書表16.7.6による
・かまち戸
　かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
　見込み寸法　・建具表による　・　※36mm
・ふすま
　張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型　）
　上張り（押入等の裏側以外）
　　・鳥の子
　　・新鳥の子又はビニル紙程度
　縁仕上げ
　　・塗り縁　・生地縁（素地）
　　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　見込み寸法　・建具表による　・　※19.5mm
・戸ぶすま
　見込み寸法　・建具表による　・　※30mm
・紙張り障子
　見込み寸法　・建具表による　・　※30mm
枠、くつずりの材料　・建具表による

・建具用金物

(16.8.2、3)(表16.8.1)

金物の種類及び見え掛り部の材質等
　・
　※標準仕様書16.8.1により適用は建具表による
金属性建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
　・建具表による　※標準仕様書表16.8.2
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
　・建具表による　※標準仕様書表16.8.3
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
　・建具表による　※標準仕様書表16.8.4
木製建具に使用する戸車及びレール
　・建具表による　※標準仕様書表16.8.5

本間利雄設計事務所
＋地域環境計画研究室
1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806−79号　管理建築士　田中 晃
【1級建築士登録】
第298917号　高橋 良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

特記仕様書(7)

DATE 2023.04　SCALE ＮＳ
PROJECT NO Ｈ２２１３０
DRAWING NO Ａ-００７

握り玉及び、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
⊙建具表による

⊙錠前類
【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。
鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。

（性能）

使用頻度による性能	1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
	2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。
	3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
	4)キーによる抜き差し繰り返し試験（10万回）を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・cmとする）
外力に対する性能	1)デッドボルトの押込み強度試験（10KN）を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
	2)デッドボルトの側圧強度試験（10KN）を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
	3)デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
	4)デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験（58.8J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。
	5)（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）	1)ラッチボルトの側圧強度試験（4KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
	2)レバーハンドルのねじり強度試験（3.5KN・cm）を行った後、トルクを除いたときハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	3)握り玉のねじり強度試験（3KN・cm）を行った後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	4)ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	5)ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
鍵	1)かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
	2)同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物ー錠ー第１部：試験方法）による。

【レバーハンドル】
（性能）

ねじり強度	レバーハンドルのねじり強度試験（3.5KN・cm）を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
引張り強度	ハンドルの引張強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
垂直荷重強度	ハンドルの垂直荷重強度試験（2KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物ー錠ー第１部：試験方法）による。

⊙クローザ類　（品質・性能）

性能試験項目＼区分				①ドアクローザ		②ヒンジクローザ		③フロアヒンジ	
			番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
初期値	閉じ力及び効率による区分（注1）（注2）	Grade2	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS K 2269（原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、−15℃以下であること。					
	ストップ力	ストップ入力		60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
		ストップ解除力		8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
初期値	バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60N/m²を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		―		―	
	ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		―		―	
	戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			―		―		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じモーメント（N・m）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		―		―	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		―		―	
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置（mm）			―		―		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2		20万回		10万回		30万回	

注１．パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注２．コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
１）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法ー第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
２）試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

⊙ 鍵

（16.8.4）
マスターキー　⊙製作する　・製作しない
鍵の製作本数　・　※各室３本１組(室名札付き)
鍵箱　・無し　※有

・ 自動ドア開閉装置

（16.9.2、3）
引き戸用駆動装置
性能値
・種類・開閉方式　（　）
・耐電圧　（　）
・温度上昇　（　）
・耐久性（サイクル）　（　）
・防錆　（　）
・電源　（　）
※標準仕様書表16.9.1
多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置
性能値
・耐電圧　（　）
・温度上昇　（　）
・耐久性（サイクル）　（　）
・防錆　（　）
・電源　（　）
※標準仕様書表16.9.2
引き戸用検出装置
性能値
・耐電圧　（　）
・防錆　（　）
・防滴　（　）
・電源　（　）
※標準仕様書表16.9.3
戸の開閉方式
・建具表による
引き戸用検出装置の種類　標準仕様書表16.9.4
・建具表による
凍結防止措置
・適用する　・適用しない

⊙ 自閉式上吊り引戸装置

（16.10.3）（表16.10.1）
性能値等
・手動開き力　（　）
・手動閉じ力　（　）
・閉じ速度の調整　（　）
・制動区間　（　）
・開閉繰返し　（　）
・耐衝撃性　（　）
※標準仕様書表16.10.1
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ試験を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

⊙ 重量シャッター

（16.11.2、3）
シャッターの種類　⊙管理用シャッター
耐風圧強度　（　）N/m²
⊙外壁用防火シャッター
耐風圧強度　（　）N/m²
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉方式の種類　※上部電動式（手動併用）
・上部手動式
二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所　⊙図示　・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所
・図示　⊙全て
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
・設ける　（設置箇所　・図示　・全て　）
「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日 建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
・可動座板式　※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・設けない
管理用シャッターのシャッターケース
⊙設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
⊙JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　・　※Z12又はF12

⊙ 軽量シャッター

（16.12.2～4）
開閉方式の種類　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　（　）N/m²
スラットの材質の種類
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量（※Z06又はF06　・　）
⊙JIS G 3322(塗装溶融亜鉛ー5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板及び鋼帯)　めっきの付着量（※AZ90　・　）
スラットの形状　⊙インターロッキング形
・オーバーラッピング形

⊙ オーバーヘッドドア

（16.13.2、3）

セクション材料による区分	耐風圧性能区分（Pa）	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	・１２５(1250) ・１００(1000) ⊙７５(750) ・５０(500)	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ⊙ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板

障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所
・図示　・

⊙ ガラス

（9.7）(16.14.2～4)（表16.14.1）
フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
⊙建具表による
型板ガラスの厚さによる種類
⊙建具表による
網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
⊙建具表による
合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
・建具表による
形状による種類
・平面合わせガラス　・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ－１類　・Ⅱ－２類　・Ⅲ類
強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
⊙建具表による
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　⊙Ⅲ類
熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による
性能による種類
・１種　・２種
複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
⊙建具表による
断熱性 による区分
・Ｔ１(FL5+A12+FL5)　・Ｔ２(Low-E5+A12+PW6.8)
・Ｔ３　⊙Ｔ４(Low-E5+A12+FL5)　・Ｔ５　・Ｔ６
日射取得性、日射遮蔽性による区分
⊙Ｇ　・Ｓ
乾燥 気体の種類
⊙空気　・アルゴン　・
熱線反射ガラス
材料 板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
日射遮蔽性による区分
・１種　・２種　・３種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・Ａ類　・Ｂ類
映像調整　・行わない　・行う
倍強度ガラス
材料 板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	・図示 ・ ⊙建具の製造所の仕様による
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・ ・	・図示 ・ ⊙建具の製造所の仕様による
ステンレス製	・シーリング材 ・	・図示 ・ ・建具の製造所の仕様による
樹脂製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	・図示 ・ ・建具の製造所の仕様による

・ ガラスブロック

（16.14.5）

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅（mm） 平積み	目地幅（mm） 曲面積み	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
正方形	・ 125×125	80	・	・	・ ※ 8～15 ・ 15～25	外側 ・ ※ 15以下 内側 ・ ※ 6以上	・ 図示 ※ 6m以下ごとに 幅 10～25	・ 有り ※ 無し
	・ 160×160	・ 95 ・ 125	・	・				
	・ 200×200	・ 95 ・ 125	・	・				
	・ 320×320	95	・	・				
長方形	・ 250×125	80	・	・				
	・ 320×160	95	・	・				

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材
※図示 ・ （ ）
力骨 材質 ※ステンレス鋼（SUS304）
寸法 ※径5.5mm
形状 ※はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色 （ ）
金属製化粧カバー
材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ※図示
形状 ※図示
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
・ ・図示
※ガラスブロック製造所の仕様による

17章 カーテンウォール工事

・取付方法、性能等

(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)

取付方法 ・ 層間方式 ・ 柱・梁方式 ・ 方立方式
・ スパンドレル方式

性能

耐震性		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性（℃）
水平方向(K_H)	垂直方向(K_V)						
・ 1.0 ・	・ 0.5 ・	W−5	A−4	T−1	H−2	・ 30分 ・ 1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離（h）	耐風圧性能
4m 以下	・ たわみ量が ±(1/150)× h かつ絶対量 20mm 以下であること ・
4m を超える	・ たわみ量が ±(1/150)× h かつ絶対量 20mm 以下であること

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	
鉄骨造	⊙ ±1/200×h ・	
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・	

構造用ガスケット
・適用する （施工箇所 ・図示 ・ ）
材質 ・クロロプレン系 ・EPDM系
・シリコーン系
形状 ・H型 ・Y型 ・C型
寸法（mm）
ガラス板厚（ ）、支持枠の厚さ（ ）、
ウェブの寸法（ ）
・適用しない

断熱材 [G]
種類（ ）
厚さ（mm） （ ）
施工箇所 ・図示

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

・メタルカーテンウォール

(17.2.2、3、5)

金属系材料の種類
・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材
（アルミニウム材の場合）
規格等 標準仕様書16.2.3による
種別一 ・ （標準仕様書表14.2.1）
着色 ・標準色 ・特注色
映画調整 ・行う ・行わない
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差 ・ ※標準仕様書表17.2.1よる
見え掛かり部の仕上げ
ガラス溝の寸法、形状等
※カーテンウォール製造所の仕様取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向 ・ ※±10mm
水平方向 ・ ※±25mm

・ＰＣカーテンウォール

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 ・ ※±3mm
目地の心の通り ・ ※＋2mm
目地両側の段差 ・ ※＋2mm
各階の基準墨から各部材までの距離 ・ ※±3mm
シーリング材の種類
・
ガラスの取付け材料
・シーリング
種類
・構造ガスケット
形状・寸法等 ・図示による

断熱材 [G]
種類 （ ）

(17.3.2〜5)(表17.3.1、2)

材料 ・普通コンクリートの場合
コンクリート 種類 （ ）
品質 設計標準強度 ・ ※30N/mm²
スランプ ・ ※12cm
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合
2.1t/m³ を超え2.5t/m³ 以下
単位水量の最大値
・ ※185kg/m³
鉄筋 種類の記号 ※SD295A （・ ・ ）
補強鉄線
径(mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0
網目寸法
シーリング材の種類
・

耐火目地材
断熱材 [G]
種類 （ ）
ガラスの取付け材料
・シーリング
種類
・構造ガスケット
形状・寸法等 ・図示による
先付けの材料
・表面仕上材
・磁器質タイル
・石材（・花こう岩 ・大理石 ・ ）

・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール

形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
・（辺長 mm 対角線長の差 mm
開口部内法 mm ねじれ、そり mm
曲がり mm 面の凹凸 mm
先付け金物の位置 mm ）
※標準仕様書表17.3.1よる
カーテンウォールの仕上げ
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)

躯体取付金物の取付け位置の寸法許容差
・ ※標準仕様書表17.3.2よる

18章 塗装工事

⊙ 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。
（箇所： ）

⊙ 素地ごしらえ

(18.2.2〜7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種 ・ B種
	透明塗料塗りの場合	※ B種 ・ A種
鉄鋼面		※ C種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種
モルタル面及びプラスター面		※ B種 ・ A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※ B種 ・ A種
押出成形セメント板面		・ A種 ・ B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※ A種 ・ B種
	目地：継目処理工法以外	※ B種 ・ A種

⊙ 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	⊙※A種 ・ B種	※ A 種 EP-G（屋内）の場合 ・A種 ※B種
	見え隠れ部分	⊙※B種 ・ A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	⊙※A種 ・ B種	・B種 ※A種 ・C種 （EP-Gの場合C種）
	鋼製建具等以外	⊙※B種 ・ A種	

⊙ 塗装

(18.4.1〜18.14.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料の適用 [G]
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	木部屋外	※ A種 ・ B種	※ 1種 ・ 2種	
	木部屋内	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種	
	鉄鋼面	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種	・
	亜鉛めっき鋼面	—	※ 1種 ・ 2種	・
・ クリヤラッカー塗り（CL）		※ B種 ・ A種	—	
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）		※ B種 ・ A種	—	
⊙耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面	—	上塗り塗料の等級（1）級	・
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り塗料の等級（1）級	・
	コンクリート面及び押出成型セメント板面	・ A種 ・ B種 ・ C種		
⊙つや有合成樹脂エマルションペイント塗（EP−G）	コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面その他ボード面等	※B種 ・A種	—	
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・A種	—	
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）		※B種 ・A種	—	
・ 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP−T）		※B種 ・A種	—	
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）		※B種 ・A種	—	
・オイルステイン塗り（OS）		塗料： ・水性 ・油性	—	
・木材保護塗料塗り（WP）		※B種 ・A種	—	

高日射反射率塗装 [G] を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする

19章 内装工事

⊙ 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
・ ※規制対象外
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・ 図 示

⊙ ビニル床シート [G]

(19.2.2、3)

種類の記号	色 柄	厚さ(mm)	備 考
・ ※FS	・ 無地 ⊙ マーブル柄 ・ 柄物	・ ※ 2.0	

目地処理する場合の工法 ・ ・熱溶接工法

・ ビニル床タイル [G]

(19.2.2)

種類の記号	色 柄	寸法（mm）	厚さ(mm)	備 考
・TT ・FT ・FOA ・FOB ※KT	・無地 ・柄物	・ 300×300 ・ 450×450 ・ 500×500	・ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0 ・	

・ 特殊機能床

・帯電防止床シート
種類 （ ）
性能 （ ）
厚さ （ mm）
・帯電防止床タイル
種類 （ ）
性能 （ ）
寸法 厚さ （ × mm）
・視覚障害者用床タイル
視覚障害者用誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による
種類 （ ）
形状 （ ）

・耐荷重性床シート
種類 （ ）
厚さ （ mm）
・防滑性床シート
種類 （ ）
厚さ （ mm）
・防滑性床タイル
種類 （ ）
寸法 厚さ （ × mm）

⊙ ビニル幅木

(19.2.2)

材質の種類 ⊙軟質 ・硬質
高さ（mm） ・ ※60 ・75 ・100
厚さ（mm） ・ ※1.5以上

・ ゴム床タイル

(19.2.2)

種類 ・単層品 ・積層品
色柄 （ ）
厚さ(mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0
寸法(mm) （ ）

・ カーペット敷き [G]

(19.3.3、4)(表19.3.1)

・織じゅうたん

織り方	パイル形状
・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンスターカーペット	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット/ループ併用

色柄（・ ※模様の無い無地）
パイル糸の種類等

※無地の織じゅうたんの種別
（ ・A種 ・B種 ・C種 ）
帯電性 ・適用する ・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
下敷き材

※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ（mm）	工 法	帯電性	備 考
・ カットパイル	・ 5〜7	・ 全面接着工法 ・ グリッパー工法	・ 適用する ・ 適用しない	
・ ループパイル	・ 4〜6			
・ カット、ループ併用	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
・
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm） （ ）
帯電性 ・適用する
・適用しない
備考 （ ）

・タイルカーペット

パイルの形状	種 類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備 考
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		・ ※ 500×500	・ ※ 6.5	
・ カット、ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		・ ※ 500×500	・ ※ 6.5	
※ ループパイル	・ ※ 第一種	図示	・ ※ 500×500	・ 7.5 ※ 6.5	

タイルカーペットの敷き方 平 場
・模様流し
※市松敷き
階段部分
・市松敷き
※模様流し

見切り、押え金物
材質 （ ）
種類 （ ）
形状等 ※図示

⊙ 合成樹脂塗床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ ※平滑仕上げ
⊙厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床	図示	⊙薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ⊙防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ
・水性硬質ウレタン系塗床		・流し展べ工法 製造所の仕様による	・防滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

・フローリング張り[G]

(19.5.2～6)(表19.5.1～5)

・単層フローリング（フローリングボード1等）
工法　・釘止め工法（　・根太張り　・直張り　）
　　　・接着工法
樹種　・　　　　※　なら
間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

・単層フローリング（フローリングブロック1等）
樹種　・
厚さ　・
大きさ　・
間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

・複合フローリング
工法　・釘止め工法（　・根太張り　・直張り　）
　　　・接着工法
樹種　・カバ　・ブナ　※　なら
種別　・A種　・B種　・C種
間伐材等の適用　・適用する　・適用しない

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外
接着工法の場合の裏面緩衝材
　※合成樹脂発泡シート

・現場塗装仕上げ　・オイルステインの上、ワックス塗り
　　　　　　　　　・生地のままワックス塗り
　　　　　　　　　※ウレタン樹脂ワニス塗り

・畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

種別　・A種　・B種　・C種
　　　・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N　）
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
　　　　　　・ポリスチレンフォーム床下地
　　　　　　（ノンフロン[G]）
　　　　　　・図示
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⊙ せっこうボードその他ボード及び合板張り

(19.7.2、3)(表19.7.1)

合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板[G]	HW	・15　・20　・25
・中質木毛セメント板[G]	MW	・15　・20　・25
・普通木毛セメント板[G]	NW	・15　・20　・25
・硬質木片セメント板[G]	HF	・12　・15　・18　・21
・普通木片セメント板[G]	NF	・30
⊙けい酸カルシウム板	0.8 FK 1.0 FK	タイプ2（無石綿）　⊙6　・8
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（⊙9（不燃）・12（不燃）・　） ・凹凸タイプ（⊙12（不燃）・15（不燃）・　）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25
・グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	・25（ガラスクロス包）
⊙せっこうボード	GB-R	⊙12.5（不燃）　・15（不燃）　⊙9.5（準不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）
⊙シージングせっこうボード	GB-S	12.5（⊙不燃　・準不燃）
⊙強化せっこうボード	GB-F	⊙12.5（不燃）　・15（不燃）　・21（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5（不燃）　幅 440mm 程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材共
⊙化粧せっこうボード （トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板[G]		表面の樹種 生地、透明塗料塗り （・　　※ラワン程度　） 不透明塗料塗り （・　　※しな程度　） 板面の品質（　　） 厚さ（mm）（　　） 接着の程度（・1類　・2類　） ・防虫処理
・天然木化粧合板[G]		化粧板の樹種名（杉(金山産)，シナ） 接着の程度（・1類　・2類　） 厚さ（mm）（　6　） ・防虫処理
・特殊加工化粧合板[G]		化粧加工の方法 （・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類　） 厚さ（mm）（　　） ・防虫処理
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による　厚さ（・　※1.2　）
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード[G]	MDF	・3　・7　・9　・12
・単板張りパーティクルボード[G]		・無研磨板　・研磨板 ・10　・12　・15　・18
・化粧パーティクルボード[G]		・単板オーバーレイ　・プラスチックオーバーレイ ・塗装 ・10（難燃）　・12（難燃）
・ハードボード（素地）[G]	HB	・無研磨板（・スタンダード　・テンパード　） ・研磨板（・スタンダード　・テンパード　）
・ハードボード（化粧）[G]		・内装用　・外装用 ・2.5　・3.5　・5　・7
・インシュレーションボード[G]	IB	A級（・天井仕上げ　・内装仕上げ　・　　） ・9　・12　・15　・18

せっこうボード等の下地　※図示
遮音シール材
　⊙適用する（⊙シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
　・適用しない

合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　・仕上表による
　　　　　　　　　　　　　・

⊙ 壁紙張り

(19.8.2、3)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考（参考価格）
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他		
壁、天井等	・	・	・	・	⊙	⊙不燃　・準不燃	1090円/㎡
	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　・A種　※B種
コンクリート面の素地ごしらえ　・A種　※B種
せっこうボード面の素地ごしらえ　・A種　※B種

⊙ 断熱材[G]

(19.9.2、3)

フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外

・断熱材打込み工法

種類		厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）		・	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材		・	・
・フェノールフォーム断熱材		・	・
・グラスウール断熱材		・100	・外壁（工場）

・断熱材現場発泡工法
　断熱材の種類　・A種1H　※A種1またはA種1H
　吹付け厚さ（mm）　・25　・30　・図示
　施工箇所　・図示

・現場発泡断熱材
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （1）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること （2）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法にしようしている発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の（1）～（3）に適合していること。 （1）総発熱量が8MJ/㎡以下であること。 （2）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （3）最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/㎡を超えないこと。

（試験方法）
（1）原液試験（原液粘度試験）
　JIS K 7117-1「プラスチック-液状、乳濁状又は分散状の樹脂-ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
（2）発泡品試験
　1）試料の作製は、JIS A9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
　2）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。
　3）試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
　4）圧縮強さ試験
　　JIS A 9526の6.2.5による。
　5）熱伝導率試験
　　JIS A 9526の6.2.6による。
　6）接着強さ試験
　　JIS A 9526の6.2.7による。
　7）透湿率試験
　　JIS A 9526の6.2.8による。
（3）難燃性試験は、下記のJIS A 1321 に規定する表面試験及び発熱性試験による。
　1）難燃性試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
　2）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

20章　ユニット及びその他の工事

・フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ（mm）	耐震性能	所定荷重	表面仕上材	備考
図示	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・600×600	40	・1.0G ・0.6G	・ ・3,000N ・ ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・	

寸法精度
　・
　※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c) による
　　パネルの長さ
　　　※各辺の長さが500mを超える場合　±0.1%以内
　　　　　　　　　500m以下の場合　±0.5mm以内

　　パネルの平面形状（角度）
　　　※各辺の長さが500mを超える場合　±0.1%以内
　　　　　　　　　500m以下の場合　±0.5mm以内

　　フリーアクセスフロアの高さ
　　　※　±0.5mm以内

（性能）
（1）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（2）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（3）ローリングロード性能
　所定荷重1,000N（5,000Nの積載荷重は1,000N以上で任意）による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下
（4）耐震性能
　イ）固定台試験による耐震性能

項目	性能
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

　＜適用地震時水平力＞
　・3,000N　0.6Gタイプ
　　支柱一本が負担する床荷重
　　｛（㎡当り自重＋3,000N）／㎡当りの支柱本数｝×0.6
　・3,000N　1.0Gタイプ
　　支柱一本が負担する床荷重
　　｛（㎡当り自重＋3,000N）／㎡当りの支柱本数｝×1.0
　・5,000N　0.6Gタイプ
　　支柱一本が負担する床荷重
　　｛（㎡当り自重＋5,000N）／㎡当りの支柱本数｝×0.6
　・5,000N　1.0Gタイプ
　　支柱一本が負担する床荷重
　　｛（㎡当り自重＋5,000N）／㎡当りの支柱本数｝×1.0
　ロ）振動台試験における耐震性能
　　（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
　　振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（5）耐燃焼性能
　建築基準法第2条第9号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（6）帯電防止性能評価値（U）
　0.6以上
（7）感電防止性能
　漏えい抵抗（R）≧1×10⁶Ω
（8）歩行感
　通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（9）メンテナンス性
　交換が必要な部品については交換できるように設計されている。

（試験方法）
（1）耐震性能
　1）設計床高さ≦300mmの場合
　　試験体ユニット1000mm×2500mm程度
　　所定の重りの質量　3000N：200kg　5000N：350kg
　　加振　0.6G：所定加速度600cm/S²
　　　　　1.0G：所定加速度1000cm/S²
　2）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
　　①固定台による耐震性能試験
　　　イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－1又は、試験方法－2による。
　　　ロ、原則として、試験方法－1はパネル単体設置（Aタイプ）に適用し、試験方法－2はパネル連結設置（Bタイプ）に適用するものとする。
　　②試験方法－1
　　　イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品　種類：N300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
　　　ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。
　　③試験方法－2
　　　イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品　種類：N300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は支柱要素に対して最も不利な方向とする。
　　　ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。また、800mm×800mmに荷重板1,920N（3,000N/1㎡相当）3,200N（5,000N/1㎡相当）を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。
　　④零点補正及び測定記録
　　　試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程の水平力を加力した後、速やかに除荷して"0"にした状態を零点とする。また、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
　3）共通事項
　　試験に使用する表面仕上材
　　　種類：タイルカーペット
　　　繊維素材：ナイロン100%
　　　パイル形態：ループパイル
　　　パイル長：3.0mm～4.0mm
　　　パッキン素材：塩化ビニル樹脂
　　　全厚：6.0mm～7.0mm
　　　単位質量：4.0kg/㎡～64.0kg/㎡
　　　人体耐電圧：2KV以下

・可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		表面仕上材	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
	スタッド	パネル	パネル表面仕上げ		
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式			・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）
　　　　　　　　　　　　・なし
ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上

本間利雄設計事務所＋地域環境計画研究室 1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806-79号　管理建築士　田中　晃	（仮称）小国町次期総合センター建設工事	DATE 2023.04	SCALE ＮＳ
		PROJECT NO Ｈ２２１３０	
【1級建築士登録】第298917号　高橋　良	特記仕様書(10)	DRAWING NO Ａ-０１０	

・ 移動間仕切

(20. 2. 4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材		遮音性 (dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・ 平行方向移動式 ・ 二方向移動式	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ プッシュ式 ・ ハンドル式 ・	60 80	・ 鋼板 ・	・ 焼付塗装 ・ 壁紙張り ・	・ ３６未満 ・ ３６以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能
標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512 に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
・図示
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
ランナー
・
・パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。

（品質・性能及び試験方法）
（１）パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材）及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
（２）吊りボルト
JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第一部：ボルト、ねじ及び植込みボルト」による。
（３）パネルの外観
JIS A 6512「可動間仕切」の5. a)～c)による。
（４）ホルムアルデヒド等
JIS A 6512「可動間仕切」7材料による。
（５）パネルの操作性
パネル操作の初動力は98N以下とする。
（６）耐衝撃性
質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。
（７）遮音性能
遮音性試験はJIS A 6512に規定する透過損失単位による各区分ごとに、500Hzの音について透過損失の規定値に適合するものとする。
（８）パネルの圧接装置の耐久性
パネルの圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。
（９）レールの耐久性
レールは普通パネルで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
（１０）吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。
（１１）吊りボルトの引張強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。
（１２）ランナーの引張強度
引張試験を実施し、普通パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。

⊙ トイレブース

(20. 2. 5)

表面材の材料	脚部	ドアエッジ	
	形状	形状	材　質
⊙メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・	※幅木タイプ ・	・ 標準 ⊙R	⊙アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材 ・ 木製

（品質・性能）
（１）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材 エッジ材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっきを施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

（２）構造金物

項目	品質・性能
笠木 脚部（脚具、幅木） 壁見切り金物 頭つなぎ等	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、耐食性のあるものとする。 頭つなぎ等で使用するビス等の材質はステンレス製とする。

（３）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ ラッチセット	耐食性のあるものとする。
戸当り	腐食の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（４）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5. b)による。
（５）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性
開閉耐久性

項目	品質・性能	
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903 (2008) 「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表８品質による耐汚染性（Ｂ法）の規定を満足していること。	―
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工合板	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	

（試験方法）
（１）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
（２）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。

パネル材料のホルムアルデヒド放散量　JIS A 6512により Ｆ☆☆☆☆以上

⊙ 階段滑り止め

(20. 2. 6)

材種　（⊙ステンレス製　　・黄銅製押出型材）
　　　　・アルミニウム製押出型材
　　　　・　　　　　　　　　　　　　　　　）
滑り止め材　形状（・ひも形　　⊙タイヤ型 ）
　　　　　　材質（ ゴム又は合成樹脂 ）
取り付け工法　・埋め込み工法　※接着工法
幅（mm）⊙37
　　　端部フラットエンド（⊙あり　・なし　）

⊙ 手すり

材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考
⊙SUS	⊙ヘアライン	・ ３５ ・ ４５ ⊙ 図示	・ 2階タイヤ置場	
・ ビニル製ハンドレール				

・ 黒板及びホワイトボード Ｇ

(20. 2. 8)

・黒板
　区分　　・　　　　　　※焼き付け
　種類　　・　　　　　　・鋼製黒板　・ほうろう黒板
　色　　　・　　　　　　※緑

・ホワイトボード

⊙ 鏡

(20. 2. 9)

取付箇所　　（　　図示　　　　　　　　　　　）
寸　法(mm)　⊙図示
厚　さ(mm)　・　　　※ 5

・ 表　示

(20. 2. 10)

・衝突防止表示
　形状・寸法　（・３０φ　　・ 図示　　　　）
　材質　　　　（・ステンレス製　　・ シート　）

案内用図記号は JIS Z 8210 による。
誘導標識、非常用進入口等の表示
・適用する（※消防法に適合する市販品　・　　　　　　）
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。
その他の表示　※図示

・ 煙突ライニング

(20. 2. 11)

煙突用成形ライニング材

（品質・性能）

種類	・ ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材
適用安全使用温度（上限温度）	・ 400℃　・ 650℃
適用安全使用温度（下限温度）	・
加熱線収縮率	2.0%以下
曲げ強度	0.8N/mm²以下
圧縮強度	1.0N/mm²以下
スポーリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。
透水性	試験体裏面に水滴が生じないものとする。
耐酸性	試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。
石綿	使用不可。
ﾗｲﾆﾝｸﾞ材とｺﾝｸﾘｰﾄの境界温度	100℃以下とする。

加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることができる。

（試験方法）
（１）スポーリング性試験
適用安全使用温度（300℃）から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。（試験体は完成品とし、サイズは内径600mm×長さ1000mm程度とする。）
（２）透水性試験
JIS A 5430「繊維強化セメント板」10.6透水性試験による。
（３）耐酸性試験
1.0%濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せした後、試験体の外観を調べる。
試験は、試験体を温度20℃、湿度60%の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間（168時間）浸せきする。（ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。）その後、48時間以上温度20℃、湿度60%の試験室に静置した後に外観観察を行う。（試験体のサイズは、100mm×50mmとする。）
（４）熱伝導率測定
JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。
試験設定温度は100℃、150℃、300℃、450℃、600℃とする。

・ ブラインド

(20. 2. 12)

形　式	操作方法	種　類	スラットの材質	スラット幅(mm)	ボックスレールの材種	幅・高さ取付箇所
・ 横形	・ 手動	・ コード式 ・ 操作棒式 ※ ギヤ式	・ ※ アルミニウム合金製 Ｇ	・ ※ 25	・ ※ 鋼製	・ 図示 ・
	・ 電動	－				
・ 縦形	・ 手動	・ 1本操作コード式 ※ 2本操作コード式	・ アルミスラット ・ クロススラット ・	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	・ 図示 ・
	・ 電動	－				

スラットの材質
・アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
・クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はＧとする。

・ ロールスクリーン Ｇ

(20. 2. 13)

操作方式　・スプリング式　・コード式　・電動式
幅・高さ　・図示
材種　　　・ガラス繊維製　・合成・天然繊維製　・木製
品質等
その他の材料　・
　　　　　　　※ロールスクリーンの製造所の仕様による

・ カーテン

(20. 2. 14)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考（参考価格）
・ シングル ・ ダブル	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ フランスひだ ・ 箱ひだ、つまひだ ・ プレーンひだ、片ひだ	上部メッシュ生地防炎加工品	・ 図示 ・	
						（暗幕）

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はＧとする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上

・ カーテンレール

(20. 2. 14)

材料による区分　・ステンレス製
　　　　　　　　※アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
強さによる区分　・　　　　　※１０－９０
仕上げ　　　　　・　　　　　※アルマイト
形状　　　　　　・図示　　　※角形

・ ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ（mm）　・90×150　・120×80　・120×150
　　　　　　　　　・150×80　・図示
材質　・集成材（仕上げ：ＳＯＰ　　　　　）
　　　・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
　　　　種別（標準仕様書表14.2.1）
　　　　　・ＢＣ－１　　　・ＢＣ－２
　　　　色合い　・標準色（　　　）・特注色（　　　）
　　　・鋼製（仕上げ：ＳＯＰ　　　　　）

⊙ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙アルミニウム製 ・	⊙450×450 ・ 600×600 ・	⊙一般形	・ 屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・ 目地タイプ	⊙額縁タイプ ・ 目地タイプ
		・ 気密形			

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板又同等の性能を有するもの
耐久性能(繰り返し開閉試験)
（１）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。
（２）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内

（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（１）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（２）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（３）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

⊙ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
⊙アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ⊙600×600 ・	⊙一般形 ・ 密閉形	・ 屋内外用 ⊙屋内用	・ 鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする

（品質・性能）

使用部位	材　料	屋内外用	屋　内　用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100 の A6063S-T5 （表面処理）JIS H 8602 の B種 又は JIS H 8601 の AA15	
	ステンレス製	JIS G 4305 の SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼材	－	公共建築工事標準仕様書　表 18.3.1 及び表 18.3.2 のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501 の FC150、FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100 の C2600、C2720、C2801 JIS H 3250 の C2602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305 の SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 の SUS304	
底板材 コーナーピース 底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305 の SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 の SUS304	JIS G 4305 の SUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) （表面処理）陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	－
	鋼材	－	鋼板又は JIS G 3313 にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、公共建築工事標準仕様書　表 18.3.1 及び表 18.3.2 のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等 枠の材質、形状に適した弾力性、密着性・気密性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
錠		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値 Pn=1,000N において残留たわみが点検口の有孔径の 0.08%以内 であること 受け枠･蓋その他に使用上支障がないこと 破壊荷重は、荷重値の Pn の2倍以上であること	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm　蓋付寸法の許容差　±0.5mm
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
耐荷重試験
　試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
　本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。
　測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

・ 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	・完全（全貫通型） ・部分	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ シーリング材（見え掛かり部のみ） ・	・ シーリング材（見え掛かり部のみ） ・ シーリング材（内外共）
目地寸法（mm）	・ 幅 20 × 深さ 10 ・	・ 幅 20 × 深さ 10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

・ 止水板

形　式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示

・ 水膨脹性ゴム止水材

水膨張性ゴム（膨張遅延型）、w20×t10

・ エキスパンションジョイント金物

材質	クリアランス（mm）	耐火性能	備考
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製	・ ５０　・ １００ ・ １５０	・ 有り（　　　） ・ 無し	

外部は防水型とする

・ くつふきマット

材種	受け枠	備考
・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ ステンレス鋼（SUS304） ・ 硬質アルミニウム合金 ・	

⊙ 流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
⊙流し台	・１２００ ⊙１５００ ・１８００	・５５０ ⊙６００ ・６５０	・８００ ⊙８５０	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・６００	・５５０ ・６００ ・６５０	・６２０ ・６７０	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・１２００ ・１８００	・３７０ ・４５０	・５００ ・７００	市販品
・水切り	・１２００ ・９００ ・６００	－	－	市販品 ステンレス製 ・１段式

（品質・性能）　JIS A 4420による
（１）外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1による。
（２）構成材は、JIS A 4420の8により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状　・　※図示

・ 旗　竿

材種	形式	高さ（m）	操作方法	固定方法	備考
・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー式 ・ 同一断面式		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込式 ・ ベース式 ・ バンド式	

・ 旗竿受金物

材種　・ステンレス製（SUS304）

・ 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚（mm）	高さ（m）
・ 上下式鎖内蔵式	・ 標準品 ・ スプリング式	・ ステンレス製 ・	・	・
・				

⊙ フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
　・樹脂塗装メッシュフェンス
　・鋼管フェンス
　・アルミフェンス
高さ　⊙図示

・ プレキャストコンクリート

(20.3.3、4)
コンクリートの設計基準強度
　・図示　※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小限300kg/m³を満足する調合強度
配筋
　・図示　※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
取付け方法
　・　※図示

・ 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

材種	材種	種類	質量区分	備考
・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	－	－	
・ コンクリート間知ブロック	－		・A ・B	

積み方　・布積み　※谷積み
目塗り　・図示
伸縮調整目地　材種　・図示
　厚さ　・図示

⊙ ルーフドレン（融雪型）

ステンレス製、縦型ルーフドレン＋融雪用カバーキャップ

⊙ 化粧塩ビシート

素材：塩化ビニル樹脂、形状：幅1,200以上
法定不燃材下地に施工した場合の防火性能：不燃
　㈱サンゲツ（リアテック）、シーアイ化成㈱（ベルビアン）
　住友スリーエム㈱（ダイノックフィルム）
当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合はあらかじめ監督職員の承諾を受けること。

・ 小物棚

ステンレス製折りたたみ式パイプ棚、w300×d200程度

・ ベビーシート

折りたたみ収納式、床・壁固定型、固定ベルト付き

・ ベビーチェア

折りたたみ式コンパクト型、コーナー部設置用

・ 多目的シート

折りたたみ収納式、横形、手摺り付き、樹脂製シート張り
シート面の寸法　６００×１，５００以上
シート面の高さ　約５００
収納時の出寸法　約３００

⊙ 階段･ホール手すり

合成樹脂製既製品（抗菌剤入り、木目調、３４φ）
ブラケット及び芯材：アルミニウム合金押出型材

・ 手すり点字標示

塩化ビニル樹脂シート（W１１５程度）
シルクスクリーン印刷＋点字加工（手すりと平行に標示）

⊙ 消火器ボックス

鋼製　既製品　仕様は仕上表による

・ ピクチャーレール

アルミニウム整　既製品　形状は標準詳細図による

21章 排水工事

⊙ 屋外雨水排水

(21.2.1、2)(表21.2.1、2)
材料

材　種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・ B形管 ・	・ 図示	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	・ RF-VP[G]			
	・ RS-VU[G]		・ 図示	
	・ VP		・ 図示	
	⊙VU		⊙ 図示	

基床の厚さ及び種類　・図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
　・　※接着剤

側塊の形状及び寸法　・図示
排水桝の種類　・図示
砂地業に用いる材料
　・シルト　・山砂　⊙川砂　・砕砂

⊙再生クラッシャラン[G]　・切込砂利又は切込砕石
⊙現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度　・　※18N/mm²
・現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号　・　※SD295A
⊙現場打ちの場合の足掛け金物　※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
　材質　・ステンレス製　⊙鋼製
　・合成樹脂皮膜加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料　⊙ＲＣ－４０
砂の粒度試験　・行う
　・行わない

⊙ 鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・ 水封形 ・ 簡易密閉形（パッキン式） ・ 密閉型（テーパ・パッキン式） ・ 中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式） ・	・ T－2用 ・ T－6用 ・ T－20用 ・	・ 有り ・ 無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

⊙ グレーチング

(21.2.1)

種　類	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
⊙鋼　製	⊙受枠付き、ボルト固定 ・	・ 溝ふた（横断用）	・ 歩行用	・ 細目 ・	・（　）	・ 凹凸形 ・
		・ 溝ふた（側溝用） ⊙桝ふた用 ・ U字溝用	・ T－2用 ・ T－6用 ・ T－14用 ⊙T－25用	⊙普通目 ・ 細目	・（　）	・ 平形 ・
・ ステンレス製	・ 受枠付き、ボルト固定 ・	・ 溝ふた（横断用）	・ 歩行用	－	－	・ 凹凸形 ・
		・ 溝ふた（側溝用） ・ 桝ふた用 ・ U字溝用	・ T－2用 ・ T－6用 ・ T－14用 ・ T－20用	－	－	・ 平形 ・

（品質・性能）
<鋼製グレーチング>

項目	品質・性能
メインバー、サイドバー及びエンドプレート	JIS G 3101 SS400 メインバーピッチ　普通目：30mm～35.3mm程度 細目：12.5mm～15mm程度
クロスバー	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3505「軟鋼線材」SWRM
受け枠用アングル材	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」SPHT
溶融亜鉛めっきの付着量	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」による試験において溶融亜鉛めっきの付着量がHDZ40以上又は、HDZ50以上
受け枠用アングル材	塗料仕上げとする場合は、樹脂系塗料
アンカー	間隔　側溝の場合500mm内外
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

<ステンレス製グレーチング>

項目	品質・性能
メインバー、クロスバー	JIS G 4303、JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4308、JIS G 4308のSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305のSUS430J1L
エンドバー、サイドバー	JIS G 4303、JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4308、JIS G 4317、JIS G 4308 の SUS304、JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305 の SUS430J1L
受け枠用アングル材	JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4317、JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305のSUS430J1L
アンカー	JIS G 3101 SS400、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行う 間隔　側溝の場合500mm内外
表面仕上げ	2B程度
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

（荷重試験方法）
設計荷重は以下の通りとする。

歩車道区分	荷重種別	側溝用（KN）	横断溝用（KN）	加圧面積（cm）
車道	Ｔ－２０	７８．５	１０９．８	２０×５０
	Ｔ－１４	５４．９	７６．９	２０×５０
	Ｔ－６	２３．５	３３．０	２０×２４
	Ｔ－２	７．８	１１．０	２０×１６
歩道	4,903N/m²の等分布荷重			

試験体は、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
　イ）溝ふた　横断用　Ｔ－２０～Ｔ－２のうち１体
　　歩道用　のうち１体
　　側溝用　Ｔ－２０～Ｔ－２のうち１体
　ロ）Ｕ字溝用　側溝用　Ｔ－１４～Ｔ－２のうち１体
　　歩道用　のうち１体

設計荷重を基準として一方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4,903N/sとする。繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

・ 街きょ、縁石及び側溝

(21.3.1、2)(表21.3.1)
街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・ 図示
・Ｌ形側溝	・ 図示
・Ｕ形側溝	・ 図示
・Ｕ形側溝ふた	・ 図示
・	・ 図示

地業の材料　・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
　・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石
砂利地業の厚さ　・図示　※100（mm）
現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度　・　※18N/mm²
　凍上抑制層に用いる材料
　砂の粒度試験　・行う
　・行わない

⊙ 埋戻し土

(21.2.1)
・　※Ｂ種

22章 舗装工事

・ 路　床

(22.2.2、3、5)(表22.2.1)
路床の材料

種別	材料	厚さ（mm）
・ 盛土	・ A種　・ B種　・ C種 ・ D種　・ 建設汚泥から再生した処理土[G]	・図示 ・
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャラン[G]　・ クラッシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂	・図示 ・
・ フィルター層	・ 砂 ・	・図示 ・

・路床安定処理
　安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
　路床安定化処理用添加材料
　種類　・普通ポルトランドセメント
　・高炉セメントＢ種[G]
　・フライアッシュセメントＢ種
　・生石灰（　　　）
　・消石灰（　　　）
　添加量　・　kg/m³（目標CBR　・3以上　・　　）

・ジオテキスタイル
　単位面積質量　・60g/m²以上
　厚さ（mm）　・0.5～1.0

引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上

透水係数　・1.5×10^{-1} cm/sec 以上

試験

砂の粒度試験	・行う	・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験	・行う	・行わない
路床締固め度試験	・行う	・行わない
現場ＣＢＲ試験	・行う	・行わない

・路　盤

(22.3.2、3、5)(表22.3.1)

路盤の厚さ　・図示

路盤材料

種類	
砕石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	・クラッシャラン [G]
	・粒度調整砕石 [G]
・クラッシャラン鉄鋼スラグ [G]	
・粒度調整鉄鋼スラグ [G]	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]	

・アスファルト舗装

(22.4.2〜6)(表22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　・　※図示

材料及び種類

アスファルト　・再生アスファルト [G]
（　・60〜80　・80〜100　）
・ストレートアスファルト

骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 [G]

加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物（13）
・細粒度アスファルト混合物（13）
・密粒度アスファルト混合物（13F）

シールコートの乳剤の種別
・PK-1　・PK-2

試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

舗装の平たん性
・
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・コンクリート舗装

(22.5.2〜4、6)(表22.5.1、3)

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ（mm）
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示
	歩行者用通路	・図示	・　※70

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示

材料

コンクリート
・コンクリートの種類　・普通コンクリート
・設計基準強度　・21(N/mm2)
・所定のスランプ　・12　※８
・粗骨材の最大寸法　・20
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による

早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない

注入目地材料　・高弾性タイプ　※低弾性タイプ

目地
種類
間隔　・　m程度ごと
構造　・　・図示
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による

舗装の平たん性
・
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

・カラー舗装

(22.6.2〜4)

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ　・図示
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　　%）
着色骨材（　　）
自然石（　　）

・常温系カラー舗装
工法　・ニート工法　・塗布工法
着色部の下部
・アスファルト舗装　・コンクリート舗装

・透水性アスファルト舗装

(22.7.2、3、6)

構成　・図示

材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 [G]（表22.4.1）
（種類　・60〜80　・80〜100　）

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
砂の粒度試験　・行う　・行わない

舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの

・ブロック系舗装

(22.8.2、3)

・コンクリート平板舗装 [G]

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	備考
・普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	・300角 ・	・ ※60	・モルタル ※砂	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材　・空練りモルタル　※砂

普通平板は [G]（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水平板は [G]（透水性コンクリート）とする。

仕上がり面の平たん性
・
※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。

・インターロッキングブロック舗装 [G]

種類	部位	形状寸法	厚さ（mm）	曲げ強度（N/mm^2）	備考
・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M） ※普通ブロック（N）	車路	・図示 ・	・ ※80	・ ※5.0	表面加工 ・
・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M） ※普通ブロック（N）	歩行者用通路	・図示 ・	・ ※60	・ ※3.0	

クッション材　・空練りモルタル　※砂

歩行者用通路に使用する普通ブロックは [G]（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水性ブロックは [G]（透水性コンクリート）とする。

仕上がり面の平たん性
・
※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。

・舗石舗装

種類	形状・寸法（mm）	厚さ（mm）	施工方法	基層	基層の厚さ（mm）
・花崗岩 ・	・割石 ・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・コンクリート版	・ ※70
				・アスファルト混合物	・ ※50

クッション材　・空練りモルタル　※砂

仕上がり面の平たん性
・
※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差3mm以内とする

・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/m^2以上
厚さ（mm）　・0.5〜1.0
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上
透水係数　・1.5×10^{-1} cm/sec以上

・砂利敷き

(22.9.2)

種別　・Ａ種（施工範囲：・図示　・通路　・　）
・Ｂ種（施工範囲：・図示　・建物周囲その他　・　）

・路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅（mm）	塗布厚さ(mm)
・１種 [G]	常温	液状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・２種 [G]	加熱				
※３種１号	溶融	粉体状			

[G]低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23章　植栽及び屋上緑化工事

・植栽地の確認等

(23.1.3)

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　・行う　・行わない

電気伝導度（EC）の試験　・行う　・行わない

・植栽基盤の整備

(23.2.2、4)

樹木の植栽基盤の整備
・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	・ ※A種	樹高12m以上（・　※100） 樹高7m以上〜12m未満（・　※80） 樹高3m以上7m未満（・　※60） 樹高3m未満（・　※50）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
・芝、地被類	・ ※B種	・ ※ 20	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備・設ける（・　※図示）・設けない

・植込み用土

(23.2.3)

・現場発生土の良質土　・客土

・土壌改良材

(23.2.3)

土壌改良材の適用
・適用する　・適用しない

種別及び指定量等
・バーク堆肥 [G]
施工箇所　・図示　※植栽範囲
使用量　植栽基盤面積1m^2あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）[G]
施工箇所　・図示　※植栽範囲
使用量　植栽基盤面積1m^2あたり（・10L　・　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第１の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
・

・樹木

(23.3.2)

樹種、寸法、株立数等　・　※図示

・支柱

(23.3.2、3)

支柱材　・　・真竹　※丸太（間伐材）[G]
防腐処理方法　・　※加圧式防腐処理丸太材
形式　・図示

・幹巻き用材料

(23.3.2)

材料　・わら及びこも　※幹巻き用テープ

・芝

(23.4.2、3)

種類
・　・ノシバ　※コウライシバ

芝張りの工法
平地　・べた張り　※目地張り
法面　・目地張り　※べた張り

・吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m^2）	備考
・	・		
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		

・地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
⊙ 図示	・	・	・

・新植、芝等の枯保証、移植樹木の枯損処置

(23.3.4、6)(23.4.7)

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
・　※引渡しの日から1年

移植樹木の枯損処置を行う期間
・　※引渡しの日から1年

・屋上緑化 [G]

(23.5.2〜4)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示
排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　）
・板状成形品
植込み用土　・人工軽量土　※改良土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
・　※図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
・　※図示

（品質・性能）

項目	性能
透水フィルターの材質及び透水性能	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能は、その週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m^2/h以上
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度	最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10^4N/m^2の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）

（１）透水フィルタの透水性能

（イ）JIS A 1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水性試験装置の下部に試験体（透水フィルタ）をセットし、その上に砂（JIS A 5308「レディミクストコンクリート」付属書Ａに規定する砂）及びシルト＃250を容積比9:1の割合で混合し、高さ80mmの試験容器に加圧せずに均一に充填する。（試験体1体）

（ロ）常温で1日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水サイクルを繰り返す。週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差110mmを保持したまま、1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾燥工程の試験室は20±3℃湿度60±5%とする。

（ハ）水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。

（ニ）各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。

（ホ）試験開始後6週間、流出時間合計が30日を超えた時点で透水係数がまだ上昇に転じない場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流出時間を延長して確認することも可とする。

（２）排水層の耐荷重性能

（イ）最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3×10^4N/m^2の等分布荷重による加圧試験を行い、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）

（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。

・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等
・　※図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
・　※図示

（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240L/m^2・h以上
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10^4N/m^2以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常がないこと。（保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）

（１）排水基盤の耐荷重性能

（イ）3×10^4N/m^2の等分布荷重による加圧試験を行い、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）

（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱　・設置する　（形式　・図示　・　）
かん水装置　・設置する　（種類　・　・　）

追記事項（1章 一般共通事項）

⊙ 官公署その他への届出手続等

（1. 1. 3）
受注者は完了検査（中間検査を含む）時には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。

・ 概成工期

（1. 2. 1）
工事期限より　　　　　　日前

⊙ 電気保安技術者

（1. 3. 3）
⊙適用する　　・適用しない

⊙ 施工条件

※次の事項以外は工事補足説明事項による。
工事用車両の駐車場　　　　　　※構内　・敷地外
資機材置場　　　　　　　　　　※構内　・敷地外
建設発生土の仮置場（埋戻し及び盛土用）
※構内　・敷地外
構内で不足する場合は、受注者にて用意すること。

・ 工事の一時中止

基本計画書の作成
1）契約書第２１条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。
　なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。
2）工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

⊙ 発生材の処理等

（1. 3. 11）
⊙特定建設資材の分別解体等及び再資源化等
　本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成１２年５月３１日法第１０４号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
　工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする。
　また、分別解体・再資源化の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。

⊙ 技能士

下表の技能検定の職種及び作業の種別を適用する。
（1. 5. 2）［1. 6. 2］

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	構造物鉄工作業
	とび	とび作業
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	ブロック建築	コンクリートブロック工事作業
	エーエルシーパネル施工	エーエルシーパネル工事作業
防水工事	防水施工	アスファルト防水工事作業
		ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		合成ゴム系シート防水工事作業
		塩化ビニル系シート防水工事作業
		セメント系シート防水工事作業
		シーリング防水工事作業
		改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
		ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	石張り作業
タイル工事	タイル張り	タイル張り作業
木工事	建築大工	大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	内外装板金作業
	スレート施工	スレート工事作業
金属工事	内装仕上施工	鋼製下地工事作業
	建築板金	内外装板金作業
左官工事	左官	左官作業
建具工事	サッシ施工	金属製カーテンウォール工事作業
	ガラス施工	ビル用サッシ施工作業
	自動ドア施工	ガラス工事作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
塗装工事	塗装	建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	プラスチック系床仕上工事作業
		カーペット系床仕上作業
		ボード仕上工事作業
	表装	壁装作業
排水工事	配管	建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		加熱ペイントマシンマーカー作業
植栽工事	造園	造園工事作業

⊙ 室内空気中の化学物質の濃度測定

（1. 5. 9）
施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼンの室内濃度を測定し、報告すること。測定方法はアクティブ法とする。

測定対象室及び測定箇所数
（採取サンプルは、アルデヒド用１個、ＶＯＣ用１個の計２個で１箇所とする。）

階	室名	箇所数	備考
1	小会議室１	1	
1	女子休憩室	1	
4	支社長室	1	
		計（　３　）	

⊙ 完成時の提出図書

（1. 7. 1〜3）
工事完成時に下記の図書を監督職員に提出する。なお、当該建築物の取得する施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は発注者に移譲する。

完成図等
⊙完成図　　表１．７．１のうち施工図及び施工計画書を除くもの
　作成方法　　※ＣＡＤで新規作成する
　　　　　　　⊙既存ＣＡＤデータの修正
　提出物　　　ＣＡＤデーター式　　　２ 部
　　　　　　　ＰＤＦデーター式　　　２ 部
　　　　　　　陽画複写　Ａ１　　　　２ 部
　　　　　　　　　　　　Ａ３　　　　５ 部
　　　　　　　（２つ折り製本）

⊙施工図　　表１．８．１のうち施工図
　　　　　　提出物　ＣＡＤデーター式　２ 部
　　　　　　　　　　ＰＤＦデーター式　２ 部
　　　　　　陽画複写　　Ａ１　　　　　１ 部
　　　　　　（２つ折り製本）

⊙施工計画書　　表１．７．１のうち施工計画書
　提出物　　　　Ａ４　　　１ 部　（ファイルとじ）
・国有財産台帳付属図面
　図面　　　　案内図、　配置図（外構図）、求積図、平面図、屋根伏図、仕上表
　作成方法　　※ＣＡＤで新規作成する
　　　　　　　・既存ＣＡＤデータの修正
　　　　　　　・既存完成図の修正（下記のＣＡＤデータの提出は不要）
　提出物　　　原図　　　　Ａ３　　　　１ 部
　　　　　　　（作成については監督員の指示による）
　　　　　　　ＣＡＤデーター式　　　　２ 部

保全に関する資料
・「管理者のための建築物保全の手引き」（建設大臣官房官庁営繕部監修）　　１ 冊

・建築物等の利用に関する説明書　：「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き」に基づき作成する。
　提出物　Ａ４判ファイル綴込み
　２ 部（関連工事と合本する。）

⊙保全に関する資料　：機器取扱い説明書、機器製作図、機器性能試験成績書、官公署届出書類、主要材料・機器一覧表等
　提出物　Ａ４判ファイル綴込み
　１ 部

・機器取扱い説明書　：宿舎等で共用部分を除く部分に設置した機器の取扱い説明書をまとめ書類、主要材料・機器一覧表等
　提出物　Ａ４判ファイル綴込み
　部

次のものを監督職員に提出する。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
⊙アルバム（カラー・キャビネ判）（ビニルレザー張張りに金文字入れ）（表紙、台紙共２９５×３０５）	外部（15）（空撮を含む） 内部（50）	※２　・４	※１００×１２５以上 ⊙２４×３６以上（空撮を除く）
・全紙パネル（木製枠パネル５３０×４２０）	外部（　） 内部（　）	※２	
・広報用　（カラー、キャビネ判）	外部（１）	※５	
⊙電子データ	外部（15） 内部（50）	※２	※2000万画素以上 ・３００ｄｐｉ以上

　撮影業者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者とする。
　電子データは、ＲＧＢ（フルカラー）、ＪＰＥＧ形式最高画質とし、ＣＤ－Ｒにて提出とする。

⊙ 設備工事との取合い

施工範囲　　工事区分表による
施工図　　　別途工事受注者と協力し、設備機器の位置、取り合いなどを検討できる施工図（Ａ１版カラー）を提出して、監督職員の承諾を受ける。

⊙ 設計ＧＬ

※図示　　・現状平均地盤

・ 契約後ＶＥ

・本工事は契約後ＶＥ方式対象工事とする。
　受注者がＶＥ提案を行う対象は、〇〇工のうち〇〇に関する施工（または材料）とする。

・ 電子納品

・本工事は電子納品対象工事とし、対象書類は工事完成図（及び工事写真）とする。

追記事項（2章 仮設工事）

⊙ 監督職員事務所

※設ける　　　　　　　　　　　　　　　　（2. 3. 1）
　規模　　：２号（20㎡程度）
　仕上程度：床　　　　タイルカーペット
　　　　　　壁・天井　化粧ボード
　備品等　：打合せテーブル×２、パイプ椅子×６
　　　　　　ロッカー（４人用×１）、スチール棚×１
　　　　　　長靴×４、雨具×４
　　　　　　冷暖房設備
　その他　：Ｗｉ－Ｆｉ環境を整えること。

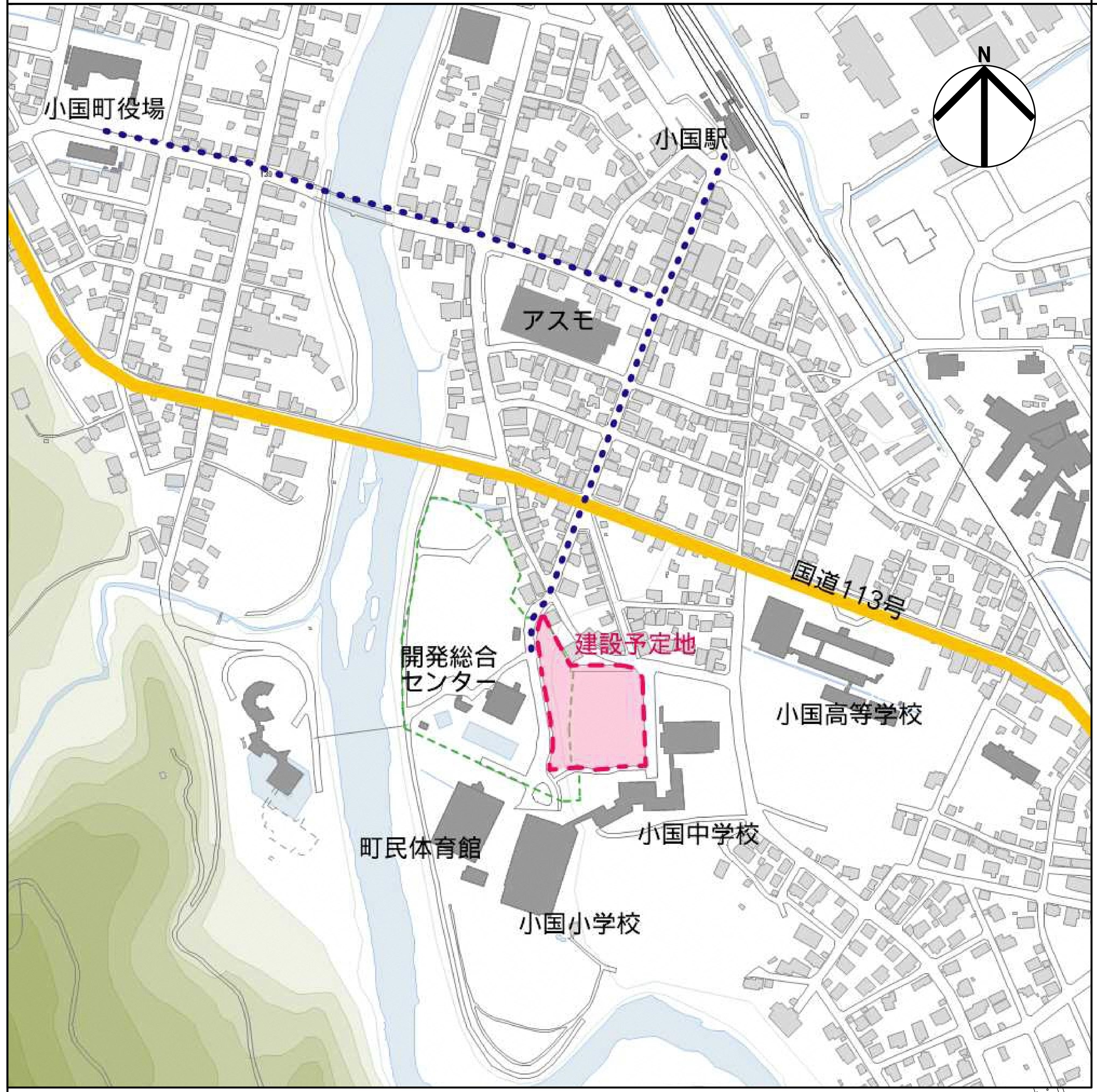
・設けない

⊙ 工事用水及び電力

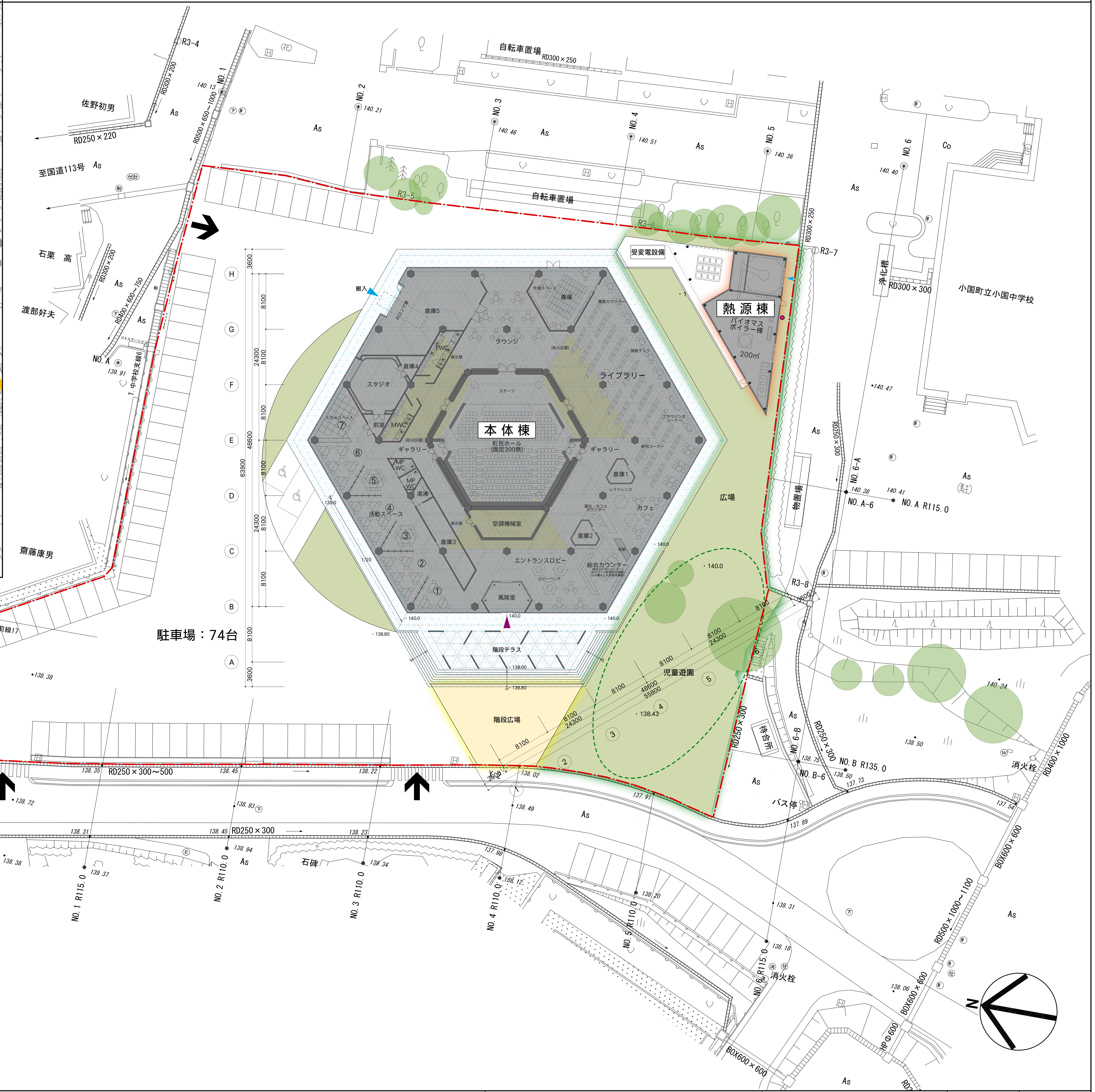
工事用水　　構内既存の施設　・利用できる（※有償・無償）
　　　　　　　　　　　　　　※利用できない
工事用電力　構内既存の施設　・利用できる（※有償・無償）
　　　　　　　　　　　　　　※利用できない

本間利雄設計事務所＋地域環境計画研究室 1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806−79号　管理建築士　田 中　晃	（仮称）小国町次期総合センター建設工事	DATE 2023. 04	SCALE ＮＳ
		PROJECT NO Ｈ２２１３０	
【1級建築士登録】第298917号　高 橋　良	特記仕様書(14)	DRAWING NO Ａ-０１４	

■敷地案内図



■配置図



株式会社本間利雄設計事務所 1級建築士事務所　山形県知事登録　第1806−79号　管理建築士　田中 晃 【1級建築士登録】 第298917号　高橋 良	（仮称）小国町次期総合センター建設工事 敷地案内図・配置図	DATE 2023. 04 PROJECT NO. H22130 DRAWING NO. A—101	SCALE (A1)1:300 (A3)1:600

外部仕上表

【本体棟】

部位	仕上
屋根・防水	塩ビ系シート防水(1.5)・断熱材(50)
軒天	RC化粧型枠打放し（A種）化粧目地切り＋WS
外壁	RC化粧型枠打放し（A種）＋WS
	RC打放し（C種）＋杉板乱張り＋WP
腰壁	RC化粧型枠打放し（B種）＋WS
柱	RC化粧型枠打放し（A種）＋WS
階段テラス床	透水性インターロッキングブロック(60)敷き
スロープ床	透水性インターロッキングブロック(60)敷き
屋外階段手摺	SUS製HL
笠木	アルミ既製品(2.0)
雪庇切り	SUSフェンスネット50×50　フレーム：SUS製
開口部	アルミサッシ・スチール製ドア
断熱材	外壁：吹付硬質ウレタンフォームA種1（40）
	屋根（スラブ上）：硬質ウレタン変性イソシアヌレート（50）
	ピット外周面：押出法ポリスチレンフォーム3種ｂ（30）

【熱源棟】

部位	仕上
屋根・防水	木毛セメント板（25）＋アスファルトルーフィング940＋
	カラーガルバリウム鋼板（0.35）タチハゼ葺
軒天	カラーガルバリウム鋼板スパンドレル（0.35）
外壁	GB−S（12.5）二重＋透湿シート＋
	カラーＧＬ鋼板スパンドレル（0.35）
腰壁	RC化粧型枠打放し＋WS
開口部	アルミサッシ・スチール製ドア
煙突	内径φ500　耐熱塗装（シルバー色）
階段テラス大庇	柱壁・梁型：CLT架構現し＋WP

凡例

仕上材符号

RC	鉄筋コンクリート	LGS	軽量鉄骨	GB-R	せっこうボード		
M	モルタル	VT	ビニル床タイル	GB-S	シージングせっこうボード		
C	コンクリート素地	RT	ゴム床タイル	GB-D	化粧せっこうボード		
S	鉄骨	VS	ビニル床シート	DR	ロックウール化粧吸音板		
W	木	GS	ゴム床シート	F	フレキシブルボード		
CB	コンクリートブロック	TC	タイルカーペット	FK	けい酸カルシウム板		
ALC	ALCパネル	CT	磁器質タイル	VC	ビニルクロス		
ECP	押出成形セメント板	RW吹付	吹付けロックウール	OAF	OAフロア		
PC	プレキャストコンクリート	GW	グラスウールボード・化粧ボタンワッシャー				

巾木材符号

V	ビニル巾木
W	木製巾木（CL）
VS	ビニル床シート立上げ巾木
VH	硬質樹脂巾木
K	腰壁同柄フィルム張り巾木
SUS	ステンレス巾木
CT	磁器タイル巾木

塗装符号

SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
CL	クリヤラッカー塗り
NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り
EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り
UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
OS	オイルステイン塗り
WP	木材保護塗料塗り
WS	WS 疎水剤塗り

株式会社本間利雄設計事務所
１級建築士事務所　山形県知事登録　第１８０６−７９号　管理建築士　田 中　晃
【１級建築士登録】第２９８９１７号　高 橋　良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

外部仕上表

DATE 2023. 04
SCALE (A1)−− (A3)−−
PROJECT NO. H22130
DRAWING NO. A−102

内部仕上表１【本体棟】

階	室名	床	床高	巾木	巾木高	腰（壁）FL～H3000	壁 H3000～CH	柱型	天井	天井高	梁型	備考
1	風除室１	VT(3.0)	±0	SUS	60	GB-R(12.5)+EP	ー	WS	DR(9)	3000	ー	ステンレスマット、排水目皿
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)			LGS+GB-R(9.5)			
	エントランスロビー	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	総合カウンター	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	子育て支援スペース	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	乳児室・WC	複合フローリング(15)	±0	V	60	GB-R(12.5)+EP	ー	ー	GB-R(9.5)+EP	2500	ー	化粧鏡、手すり
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)			LGS			
	ライブラリー	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	貸出カウンター、書架、雑誌架
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)	同左					閲覧カウンター
	書庫	VS(2.0)	±0	V	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	移動書架
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	ホール	複合フローリング(15)	−800～2880	W	60	杉羽目板ランダム格子+CL	同左	WS	FGボード(12)３重	10500	ー	固定イス、ステージ框
		構造用合板(15)				LGS+構造用合板(12)	同左		S			開閉式バック壁、キャットウォーク
	ギャラリー	複合フローリング(15)	±0	W	60	杉羽目板ランダム格子+CL	同左	WS	梁型現し	10500	ー	
		構造用合板(15)				LGS+構造用合板(12)	同左					
	ラウンジ	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	ー	WS	DR(9)	3000	ー	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)			LGS+GB-R(9.5)			
	活動スペース	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	移動収納棚
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	会議室	複合フローリング(15)	±0	W	60	GB-R(12.5)+EP	ー	WS	DR(9)	3000	ー	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(9.5)			LGS+GB-R(9.5)			
	スタジオ	複合フローリング(15)	±0	W	60	有孔桐合板(9)+CL	GW(30)	同左	DR(9)	6000	ー	
		構造用合板(15)				LGS+GB-R(12.5)	LGS+構造用合板(12)		LGS+GB-S(9.5)			
	荷捌・倉庫	合成樹脂塗床(3.0)	±0	V	100	GB-R(12.5)+EP	同左	WS	梁型現し	梁下6500	WS	
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)	同左					
	倉庫1	VS(2.0)	±0	V	60	GB-R(12.5)+EP	ー	ー	GB-D(9.5)	2500	ー	
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)			LGS			
	倉庫2	VS(2.0)	±0	V	100	GB-R(12.5)+EP	ー	WS	GB-D(9.5)	3000	ー	
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)			LGS			
	WC（M・F）	VS(2.0)	±0	V	60	化粧FK(6)	ー	WS	GB-R(9.5)+EP	2500	ー	洗面カウンター、汚垂石、化粧鏡
		C(直)				LGS+GB-R(12.5)			LGS			手すり、膳板
	MPWC	VS(2.0)	±0	V	60	化粧FK(6)	ー	ー	GB-R(9.5)+EP	2500	ー	洗面カウンター、化粧鏡、手すり
		C(直)				LGS+GB-R(12.5)			LGS			膳板
	湯沸室	VS(2.0)	±0	V	60	GB-R(12.5)+EP	ー	WS	GB-R(9.5)+EP	2500	ー	流し台、吊戸棚
		C(直)				LGS+GB-R(9.5)			LGS			

凡例													
凡例	仕上材符号	RC	鉄筋コンクリート	LGS	軽量鉄骨	GB-R	せっこうボード	巾木材符号	V	ビニル巾木	塗装符号	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
		M	モルタル	VT	ビニル床タイル	GB-S	シージングせっこうボード		W	木製巾木（CL）		CL	クリヤラッカー塗り
		C	コンクリート素地	RT	ゴム床タイル	GB-D	化粧せっこうボード		VS	ビニル床シート立上げ巾木		NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
		S	鉄骨	VS	ビニル床シート	DR	ロックウール化粧吸音板		VH	硬質樹脂巾木		2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り
		W	木	GS	ゴム床シート	F	フレキシブルボード		K	腰壁同柄フィルム張り巾木		EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り
		CB	コンクリートブロック	TC	タイルカーペット	FK	けい酸カルシウム板		SUS	ステンレス巾木		UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
		ALC	ALCパネル	CT	磁器質タイル	VC	ビニルクロス		CT	磁器タイル巾木		OS	オイルステイン塗り
		ECP	押出成形セメント板	RW吹付	吹付けロックウール	OAF	OAフロア		AL	アルミR巾木		WP	木材保護塗料塗り
		PC	プレキャストコンクリート	GW	グラスウールボード・化粧ボタンワッシャー							WS	WS 疎水剤塗り

内部仕上表２【熱源棟】

階	室　名	床	床高	巾　木	巾木高	腰（壁	壁	柱　型	天　井	天井高	梁　型	備　考
1	サイロ室	防塵塗装	−2500	ー	ー	RC化粧打放＋WS	GB-S(12.5)現し	SOP	木毛セメント板表し	ー	SOP	
		C(直)										
	ボイラー室	防塵塗装	±0	ー	ー	RC化粧打放＋WS	GB-S(12.5)現し	SOP	木毛セメント板表し	ー	SOP	
		C(直)										
	チラー置場	防塵塗装	±0	ー	ー	RC化粧打放＋WS	カラーGL鋼板スパンドレル（0.35）	SOP	木毛セメント板表し	ー	SOP	
		C(直)										

凡例

仕上材符号

RC	鉄筋コンクリート	LGS	軽量鉄骨	GB-R	せっこうボード
M	モルタル	VT	ビニル床タイル	GB-S	シージングせっこうボード
C	コンクリート素地	RT	ゴム床タイル	GB-D	化粧せっこうボード
S	鉄骨	VS	ビニル床シート	DR	ロックウール化粧吸音板
W	木	GS	ゴム床シート	F	フレキシブルボード
CB	コンクリートブロック	TC	タイルカーペット	FK	けい酸カルシウム板
ALC	ALCパネル	CT	磁器質タイル	VC	ビニルクロス
ECP	押出成形セメント板	RW吹付	吹付けロックウール	OAF	OAフロア
PC	プレキャストコンクリート	GW	グラスウールボード・化粧ボタンワッシャー		

巾木材符号

V	ビニル巾木
W	木製巾木（CL）
VS	ビニル床シート立上げ巾木
VH	硬質樹脂巾木
K	腰壁同柄フィルム張り巾木
SUS	ステンレス巾木
CT	磁器タイル巾木
AL	アルミR巾木

塗装符号

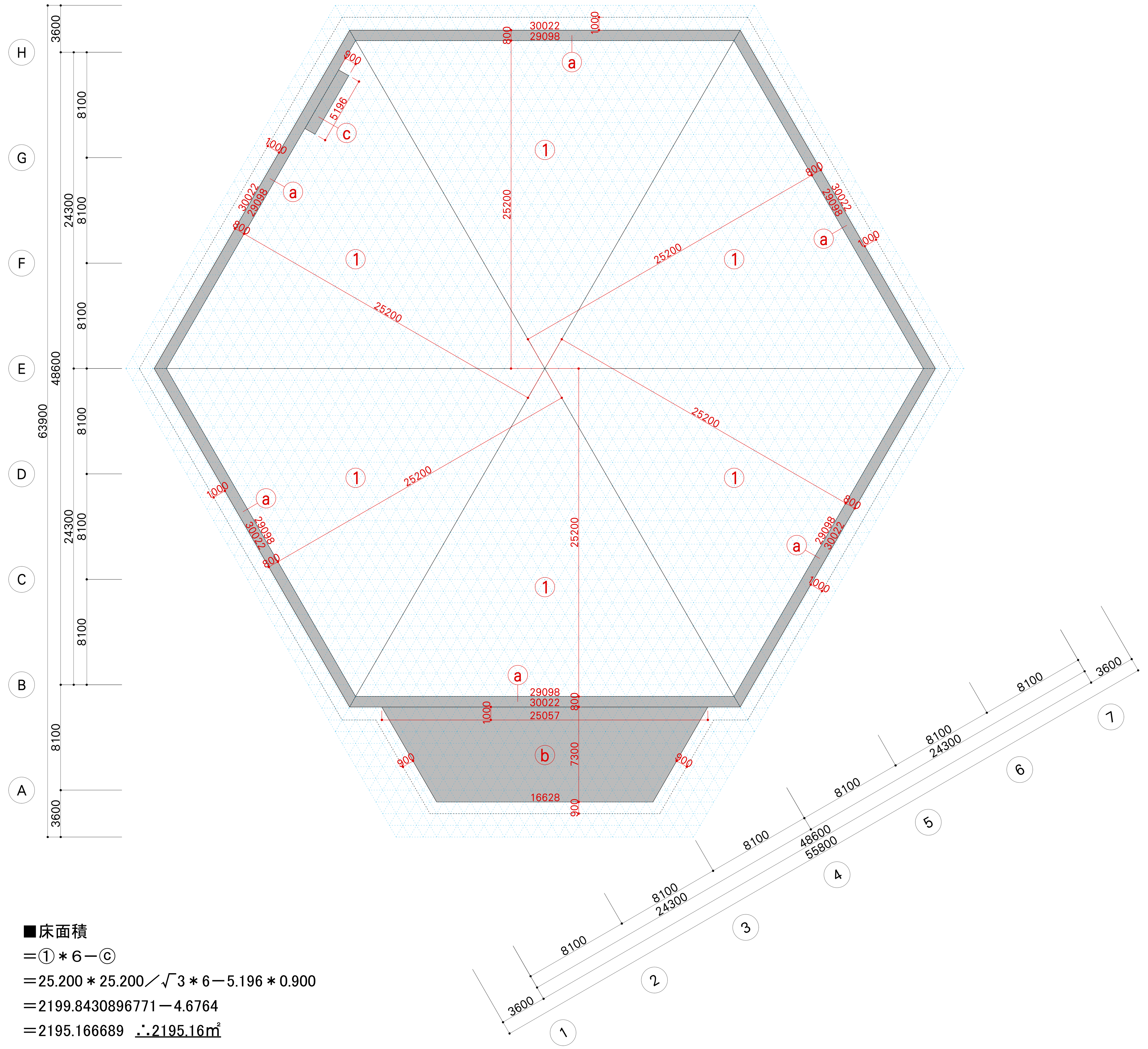
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
CL	クリヤラッカー塗り
NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
2-FUE	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り
EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り
UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
OS	オイルステイン塗り
WP	木材保護塗料塗り
WS	WS 疎水剤塗り

株式会社本間利雄設計事務所
１級建築士事務所　山形県知事登録　第１８０６−７９号　管理建築士　田 中　晃
【１級建築士登録】第２９８９１７号　高 橋　良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

DATE 2023. 04　SCALE (A1)−− (A3)−−
PROJECT NO. H22130
内部仕上表２　DRAWING NO. A−104

■本体棟



■床面積

＝①＊6－ⓒ

＝25.200＊25.200／√3＊6－5.196＊0.900

＝2199.8430896771－4.6764

＝2195.166689　∴2195.16㎡

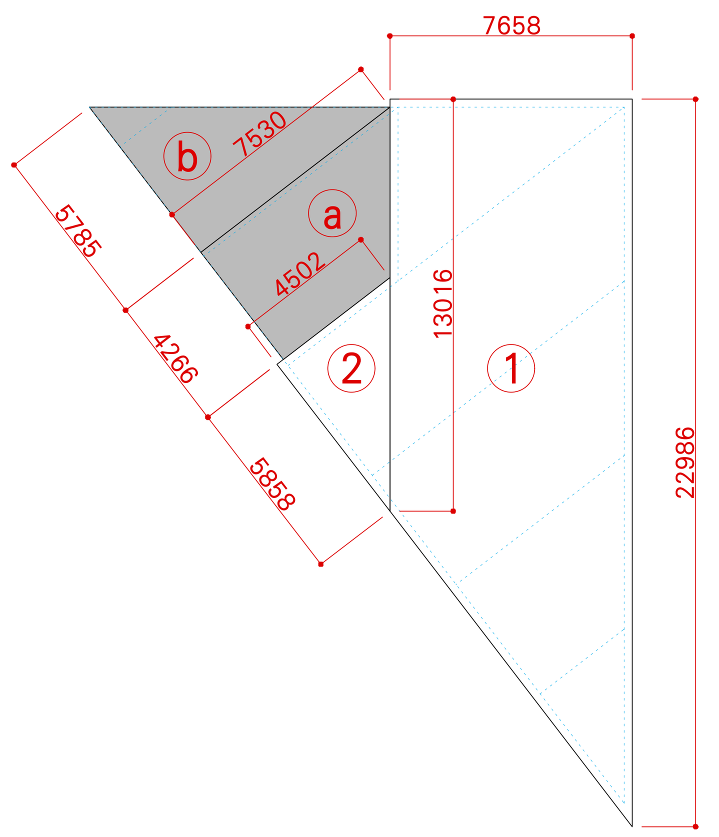
■建築面積

＝床面積＋ⓐ＊6＋ⓑ＋ⓒ

＝2195.166689＋(29.098＋30.022)＊0.800／2*6＋(25.057＋16.628)＊7.300／2＋5.196＊0.900

＝2195.166689＋141.8880＋152.15025＋4.6764

■熱源棟



■床面積

＝①＋②

＝(13.016＋22.986)＊7.658／2＋5.858＊4.502／2

＝137.851658＋13.186358

＝151.038016　∴151.03㎡

■建築面積

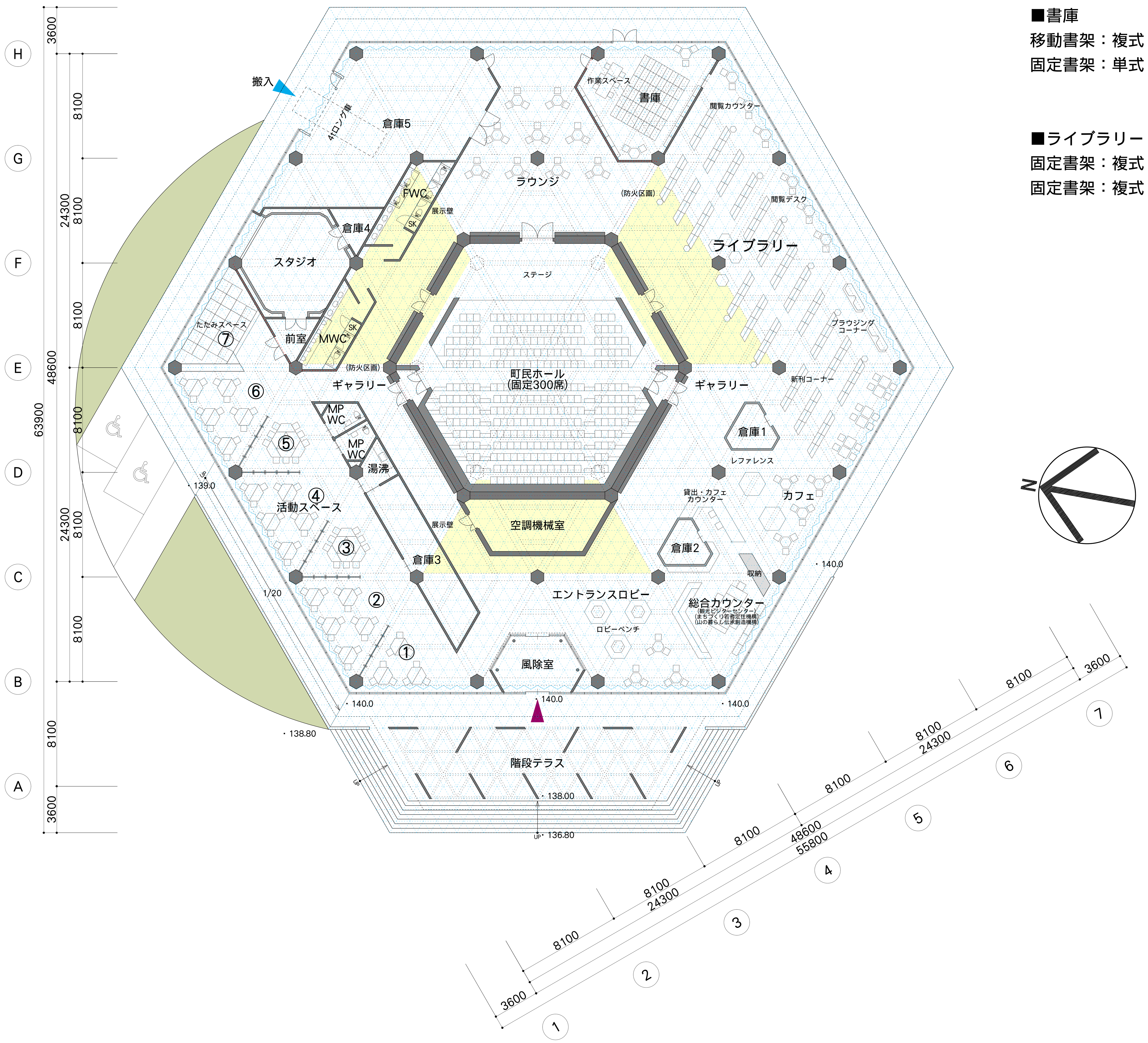
＝床面積＋ⓐ＋ⓑ

＝151.038016＋(4.502＋7.530)＊4.266／2＋5.785＊7.530／

＝151.038016＋25.664256＋21.780525

＝198.482797　∴198.48㎡

株式会社本間利雄設計事務所 １級建築士事務所　山形県知事登録　第１８０６－７９号　管理建築士　田 中　晃	（仮称）小国町次期総合センター建設工事	DATE 2023. 04	SCALE (A1)1:200 (A3)1:400
		PROJECT NO. H22130	
【１級建築士登録】 第２９８９１７号　高 橋　良	面積求積図	DRAWING NO. A—105	



■書庫

移動書架：複式６段＊６連（480＊６）＊８列＝23,040冊

固定書架：単式６段＊13台＝3,120冊

合計：26,160冊

■ライブラリー

固定書架：複式４段＊４連（320＊4）＊ 9台＝11,520冊

固定書架：複式６段＊４連（480＊4）＊12台＝23,040冊

合計：34,560冊

総計：60,720冊

（現有：25,000冊）

株式会社本間利雄設計事務所

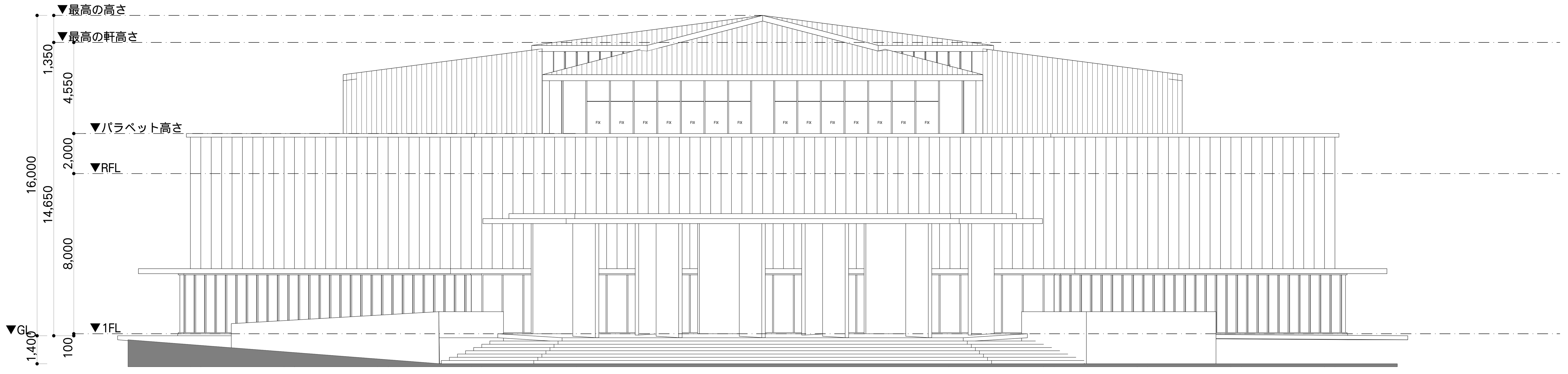
１級建築士事務所　山形県知事登録　第１８０６−７９号　管理建築士　田中晃

【１級建築士登録】第２９８９１７号　高橋良

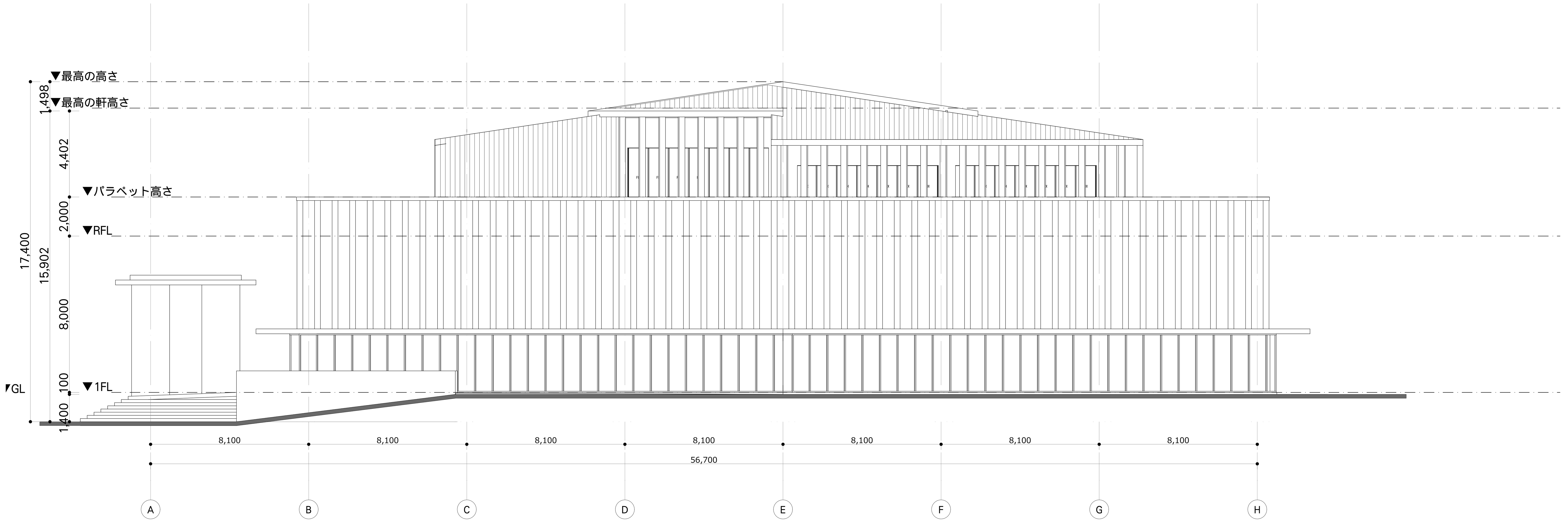
（仮称）小国町次期総合センター建設工事

１階平面図

DATE	2023. 04
SCALE	(A1)1:200 (A3)1:400
PROJECT NO.	H22130
DRAWING NO.	A−106



西立面図　1:150(A1)



南立面図　1:150(A1)

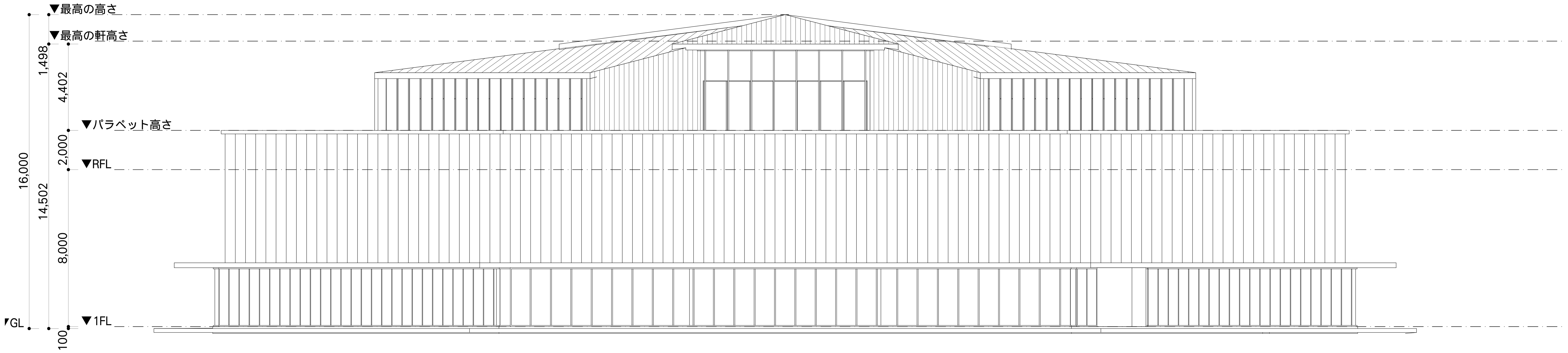
株式会社本間利雄設計事務所

１級建築士事務所　山形県知事登録　第１３０６－７９号　管理建築士　　田 中 晃

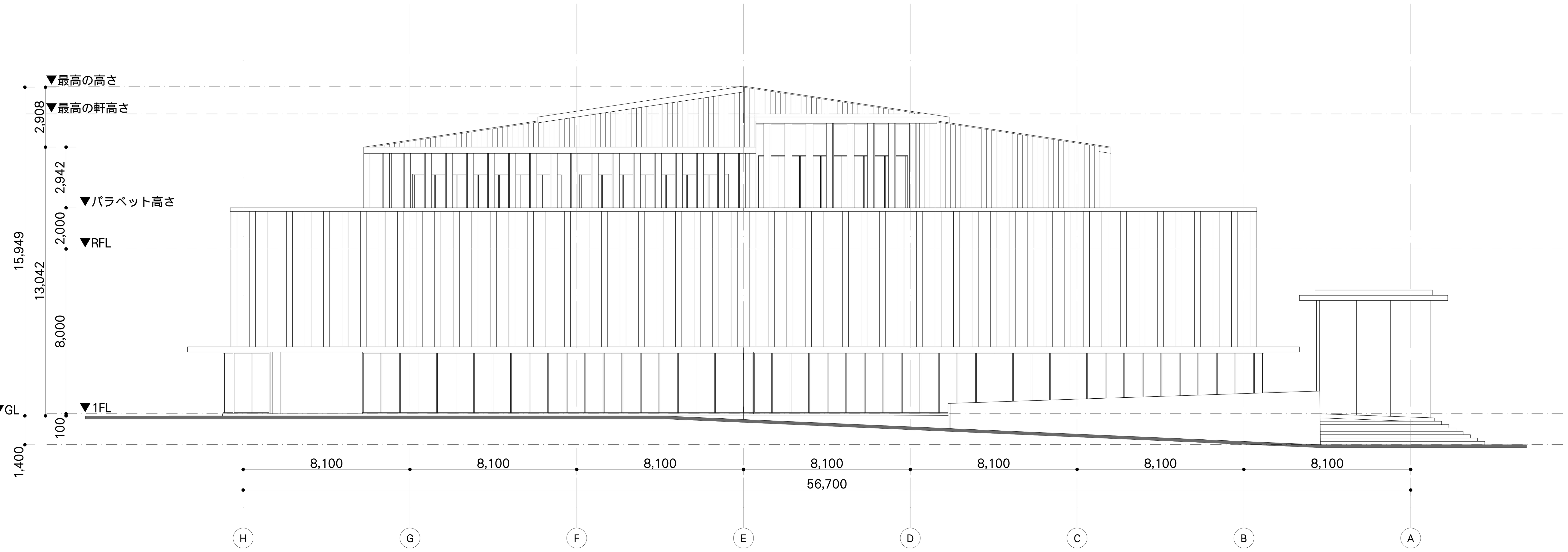
【１級建築士登録】
第２９８９１７号　　高 橋 良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

DATE	2023. 04
SCALE	(A1)1:150 (A3)1:300
PROJECT NO.	H22130
	立面図１
DRAWING NO.	A―107

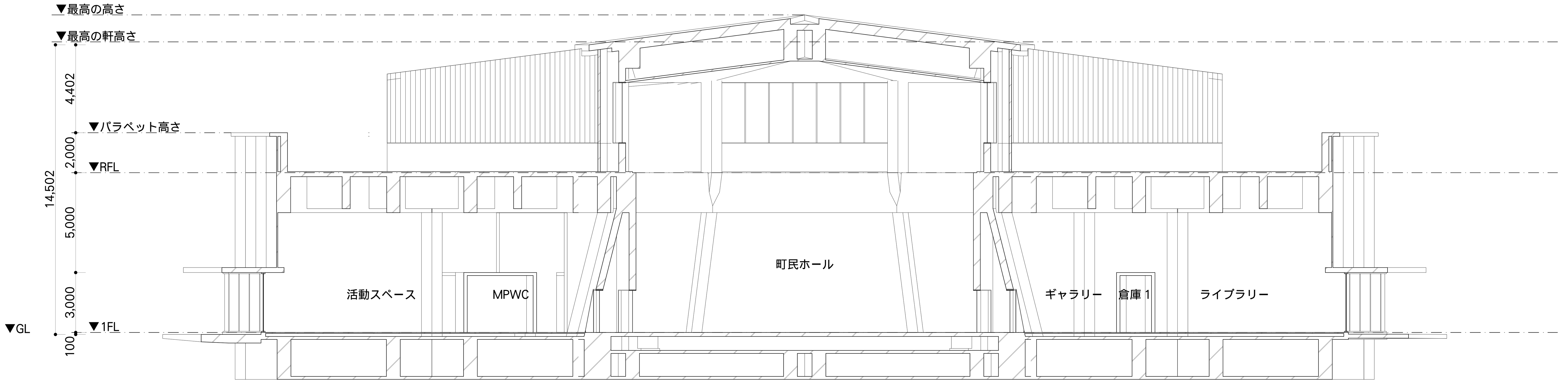


東立面図　1:150(A1)

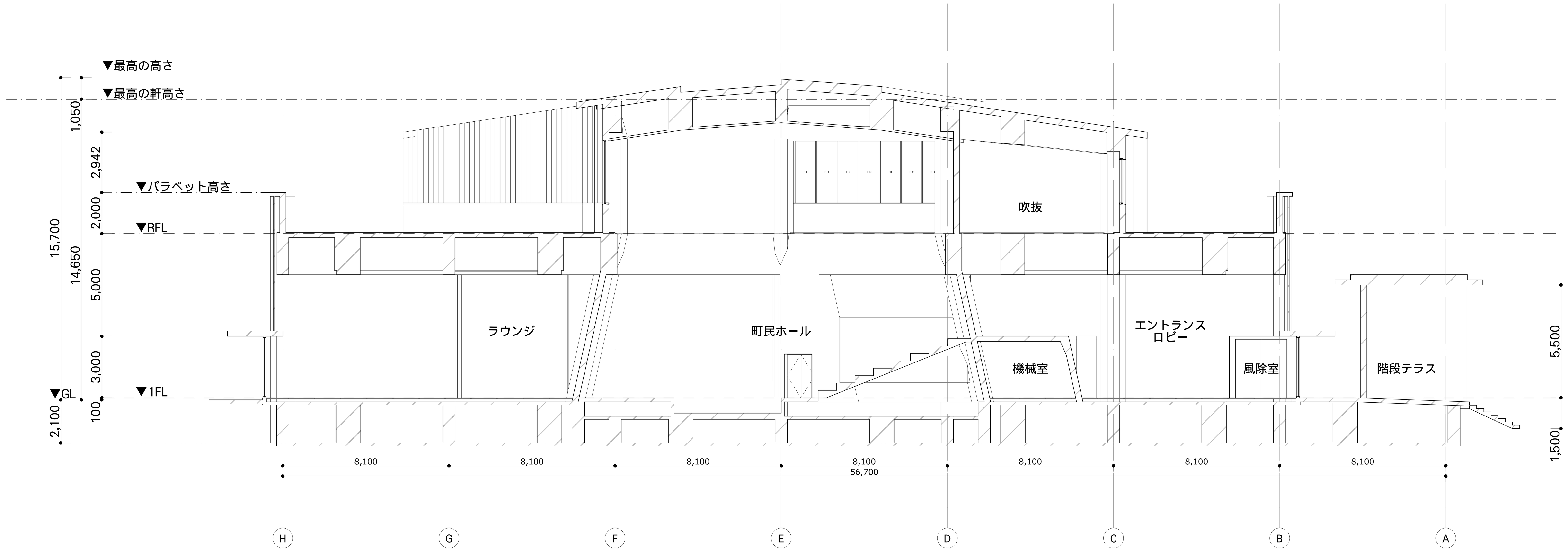


北立面図　1:150(A1)

株式会社本間利雄設計事務所 １級建築士事務所　山形県知事登録　第１３０６－７９号　管理建築士　田 中 晃	（仮称）小国町次期総合センター建設工事	DATE 2023. 04	SCALE (A1)1:150 (A3)1:300
【１級建築士登録】 第２９８９１７号　高 橋 良	立面図２	PROJECT NO. H22130	
		DRAWING NO. A―108	



A-A'断面図　1:150(A1)



B-B'断面図　1:150(A1)

株式会社本間利雄設計事務所

１級建築士事務所　山形県知事登録　第１３０６－７９号　管理建築士　　田 中 晃

【１級建築士登録】
第２９８９１７号　　高 橋 良

（仮称）小国町次期総合センター建設工事

DATE	2023. 04
SCALE	(A1)1:150 (A3)1:300
PROJECT NO.	H22130
断面図	
DRAWING NO.	A—109